

和仏法律学校講義録

山口, 弘一 / 若槻, 禮次郎 / 下村, 宏 / 金井, 延 / 矢作,
榮藏

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

2-20

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1900-11-25

和佛法律學校

講義錄

第貳部

第貳拾號

經濟學總論 (自二二) 法學博士 金井延

經濟學各論 (自六八) 法學士 矢作榮藏

財政學 (自三三) 法學士 下村宏

國際私法 (自三九) 山口弘一

現行租稅法論 (自〇一) 法學士 若槻禮次郎



090
1900
2-1-20

モテレタルモノアリ此主義ニ據レハ一人ノ所有權ハ人生固有ノ性質ニ基
クモノニシテ人ハ天賦ノ自由天賦ノ權利アリ之ヲ保衛シ獨立獨歩シテ經濟
上ノ働ヲ爲シテ生産シタルモノモ自己ノ有ニ歸セスシテ他人ハ天賦ノ權利
自由ヲ全ウスルヲ得ス故ニ之ヲ全ウスルニハ所有權ヲ認メサルヘカラス換
言スレハ所有權ハ自然ノ必要ニ因リテ生シタル權利ナリト云フニ在リ

第二說 ハ「フリーゴードロシヤス」スタール「バステチエー」ロツク等ノ諸氏カ主張
セル勞力說ニシテ財貨ノ起源ニ對シ正義ヲ行フカ爲メニ一人ノ所有權ナル
モノ存在スルモノナリト論ス此說ニ據レハ財貨ノ起源ハ勞力ナリ勞力ヲ大別
シテ二ト爲ス一ハ占有ニシテ一ハ通常ノ勞力ナリ此二種ノ勞力アリテ而シテ
發始メテ財貨生スルナリ故ニ財貨ノ生スル起源タル勞力ニ對スル正義トシテ
所有權ヲ認メサルヘカラスト云フニ在リ(二七)

(二七) 此說ハ財貨ハ如何ニシテ生スルヤヲ説明シテ財貨ハ人ノ勞力ニ因リ
テ生スルモノナリ勞力ニ二種アリ占有ノ如キ容易ナルモノト普通ニ所謂勞
力即チ占有ニ比スレハ困難ナル勞力トノ二者是ナリ而シテ財貨ヲ生スル原

因タル勞力ノ二種中其一ヲタニ施シタルモノニ對シテハ所有權ヲ認メサル
ヘカラスト云フニ在リ

右ノ二説ハ共ニ先天的ノ理由ニ基クモノナリ即チ一ハ所有權ヲ以テ天賦ニ基
クモノナリトシ此天賦トハ如何ナルモノナルヤニ付テハ少シモ説明セサルカ
故ニ漠然タル感アルヲ免レス又一ハ所有權ヲ以テ勞力ニ基クモノナリト謂フ
ト雖モ其勞力ハ何レノ場合ニ於テモ財貨ノ起源タルヤハ少シク講究ヲ要スル
點ナリ即チ勞力ハ財貨ノ状態ヲ變スルノ原因タルコト疑ナキモ總テノ場合ニ
於テ財貨ヲ生スルモノナリトスルハ稍ヤ其當ヲ得サルカ如シ

第三説 ハ「ホップス」モントスキュー「メンザム」ツグチル等ノ諸氏カ主張セル
法理說ニシテ前二者ノ如ク先天的ノ理由ニ基カス此説ニ據レハ一箇人ノ所有
權ハ單ニ國家カ便宜上法令ヲ以テ認ムルニ由リ成立ツモノタルニ過キスト云
フ(一〇)

(一〇) 第三説ハ法理說ト名クヘキモノニシテ此説ハ第二説ヲ唱ヘタル「ロフ
タ氏」ト同シク民約說ヲ唱フル「ホップス」氏等ノ主張ヲ係ルカ故ニ其根本ヲ多

少天賦自由說ノ思想ニ汲マサルニアラスト雖モ一箇人ノ所有權ヲ正義ナリ
トスル理由ニ至リテハ兩者大ニ當ナリ此説ハ「ホップス」氏ヲ始メトシ「萬法精
理」著者タル「モンテスキュー」功利說ヲ以テ有名ナル「ベンザム」近世ノ學者間
ニ録録ノ聞アル「ツグチル」等ノ諸氏カ等シク唱道スル所ナリ其基ク所前二説
ノ如ク先天的ノ理由ニ據ラス特ニ第二説ノ如キハ財貨ハ勞力ヨリ成レルカ
故ニ之ニ勞力ヲ施シタル箇人ノ所有ニ屬セシメサルヘカラスト箇人ノ所有權
ハ正義ナリト云フニ在レトモ勞力ハ何故ニ財貨ヲ生スルヤヲ説明セス且ツ
假ニ勞力カ財貨ヲ生スルモノナリトスルモ或財貨ハ之カ生産ニ與レル勞力
者ニノミ與ヘサルヘカラスト理由果シテ何クニカ在ル蓋シ人類ハ多少皆勞
働ヲ爲スモノナレハ其勞働ヨリ生シタル財貨ハ之ヲ箇人ノ有ニ歸セシテ
社會ノ共有ニ屬スルモノトスルノ理由モ全ク立タサルニアラスト然ルニ此點
ニ關シ何等ノ説明ヲ與フルコトナク漫然自然ノ成行上斯クナラサルヘカラ
スト云フカ如キ先天的ノ理由ニ基ク第二説ハ探ルニ足ラサルナリ然ルニ第
三説ハ國家カ自存ノ目的ヲ達シ又ハ自己ノ繁榮ヲ謀ルカ爲メ便宜上法令ヲ

以テ認メタルニ依リテ始メテ所有權發生スルモノナレハ箇人ノ所有權ハ法
令ノ力ニ依リテ始メテ存在スルモノナリトスルニ在リ故ニ其基ク所先天的
ニアラス

右ノ三說ハ共ニ一理アルモ未タ満足スヘカラサルノ點アリ眞理ハ蓋シテ折
衷シタルモノナラン(一九)

(一九) 右述ヘタル三說ハ何レモ多少理由アル說ナリ然レトモ第一第二ノ說
ニ付テハ已ニ述ヘタル如ク何故ニ斯ク論セサルヘカラサルヤノ點ニ關シ説
明ナシ而シテ第三說モ亦國家ハ何故ニ便宜上所有權ヲ認ムルヤヲ説明セス
故ニ以上ノ三說ヲ折衷シテ茲ニ始メテ眞理ニ達スルモノヲ得ヘシ然レトモ
此點ニ付キ詳シク説明スルハ此編ノ目的トスル所ニアラサレハ此所ニハ只
進ミテ法令カ一箇人ノ私有財產ヲ認メタル結果如何ヲ述ヘン
一箇人ノ所有權ト人身ノ自由トハ凡テノ社會上ノ發達即チ文明ノ進歩ニ最モ
必要ナル條件ナリトス是レ實ニ疑フヘカラサルコトナリ然リト雖モ亦決シテ
勳カスヘカラサル萬世不易ノ制度ト看做スヲ得ス國民ノ經濟上並ニ精神上ニ

於ケル進歩ト共ニ變化スルモノナリ(二〇) 之ヲ既往ノ歴史ニ照スニ前已ニ述

(二〇) 一箇人ノ財產所有權カ認メラルル理由ハ此所ニ深ク論究セスト雖
モ兎ニ角一箇人ノ所有權及ヒ人身ノ自由ヲ認ムルハ文明ノ進歩ニ必要ナル
條件ニシテ之ヲ認メサレハ人文ノ發達得テ望ムヘカラス即チ若シ所有權ヲ
認メサランカ人人ノ辛苦經營シタル結果ハ社會ノ共有ト爲リ毫モ其人ニ利
益ヲ與フルコトナキヲ以テ非常ニ公共心ニ富ミタル人ニアラサル限リハ自
ラ怠惰放逸ニ流レ社會ノ文物日ニ退步センノミ然ルニ自己ノ利害ハ毫モ顧
ミルコトナク専ラ社會公共ノ爲メニノミ盡サントスルモノハ殆ト稀有ノ事
ニシテ人人ノ利害相衝突スルニ當リテハ先ツ自己ノ利益ヲ圖ラントスルハ
普通ノ人情ナリ而シテ又箇人ノ自由ヲ認メサランカ動モスレハ身體ノ拘束
ヲ受ケ一自由ニ活動スル能ハサルヲ以テ社會ノ文物何レ由リテカ發達ス
ルヲ得シ然リト雖モ是レ現時ノ情勢ニ付テ言ヘルノミ今ヨリ數千百年ノ後
情勢一變シテ理想的ノ人類生スルニ至ラハ或種類ノ物ニ付テハ箇人ノ所
有權ヲ認メス又ハ凡テノ物ニ付キ所有權ヲ認メスシテ共有財產制度ヲ認ム

ルヲ可ナリトスルニ至ランモ知ルヘカラス故ニ私有財産制度及ヒ人身ノ自由ヲ認ムルコトハ社會ノ發達上萬古不易ノ必要條件ナリト謂フヲ得ス現ニ或國ニ於テハ土地ヲ國有トシ之ニ付テハ個人ノ所有權ヲ認メサルノ制度行ハルルカ如キ即チ之ヲ説明スルモノナリ

（タルカ如ク所有權ノ性質ハ時代ニ依リテ大ニ異ナリタルモノニシテ幼稚ノ社會ニ在リテハ人人ノ利害多クハ同一ナレハ共有財産ノ制度專ラ行ハレ唯リ其同所有權ノミ法令ノ認ムル所ナリ反之世運ノ進歩ニ從ヒ人人ノ利害相異ナリ漸漸互ニ相衝突スルニ至リ經濟上ノ業務モ亦次第ニ繁雜ニ起キ社會ニ存在スル凡テノ能力ヲシテ十分ニ發達セシメ經濟上必要ナル凡テノ機關ヲ十分發達シ能ハシムルニハ是非トモ法令上一個人ノ所有權ヲ認メサルヘカラス是レ私有財産制度ノ共有財産制度ニ次キテ起レル所以ナリ（二）而シテ此所有權ハ

（二）一 個人ノ財産所有權ヲ認ムル制度ハ萬古不易ノモノニアラサルコトハ既往ノ制度ニ徴スルモ明カナリ即チ前ニモ述ヘタルカ如ク所有權發達ノ歴史ニ照ストキハ往昔ハ各人ノ爲メ所殆ト同一ニシテ其利害モ亦同一ナ

リシカ故ニ共有財産制度ヲ以テ足レリトシタルモ世運ノ進ムニ隨ヒ各人利害ヲ異ニシ互ニ相衝突スルノ場合生シ生計上ニモ困難ヲ告クルニ至リ且ツ經濟上ノ事業モ漸次繁多ト爲リタルカ爲メ當ニ經濟上ノ能力ノミナラス諸般ノ能力ヲ十分ニ發達セシムルニアラサレハ社會ノ存在ヲ維持スルコト能ハサルニ至リ茲ニ始メテ私有財産制度ヲ認ムルコトト爲リタルモノニシテ此點ニ付テハ何レノ國ト雖モ皆歴史ヲ同シウス

常ニ社會人類ノ進歩ト共ニ其區域ヲ擴メ遂ニハ手足ノ以テ之ニ觸ルヘカラス目ノ以テ之ヲ見ルヘカラサル精神上ノモノニマテモ及フニ至レリ版權所有ノ如キハ即チ是ナリ此ノ如キハ決シテ往古ノ未開社會ニハ之アルコトナク進歩シタル社會ニ於テノミ見ル所ノ事實ナリ

此ノ如ク一個人ノ所有權ハ法令ノ一タヒ之ヲ認メテヨリ以來漸次擴張セシモノナレトモ亦一方ニ於テハ社會ノ進歩ト共ニ一個人ノ利害ト公共一般ノ利害ト相衝突スル場合益々加ハリ來レリ故ニ後者ヲ保護センカ爲メ前者ヲ多少制限スルノ必要モ亦漸漸増加シ強制買収法設ケラレ田野森林鐵山鐵道等ノ所有權

ニ種種ノ制限ヲ加フルコトト爲ルニ至レリ(三)此理由ニ基キ尙ホ一步ヲ進メ
 (四) 本文ニ述ヘタル如ク一方ニ於テハ所有權ハ世運ノ進歩ニ伴ヒテ擴張
 セラルルノ趨勢アリト雖モ又一方ニ於テハ却テ之ヲ縮小スルノ事情アリ即
 チ商人ノ所有權ヲ認ムルノ結果トシテ各人ノ間ニ智力ノ競争起リ優勝劣敗
 ノ理行ハレ智愚賢不肖等ノ別ニ從ヒテ甚シク貧富ノ懸隔ヲ來シ暴富者ハ百
 般ノ利益ヲ獨占セント企テ其極ヤ遠ニ社會ノ公益ト相衝突スルノ場合ヲ生
 スルニ至ルヲ免レス現ニ亞米利加ニ於テハ公共的性質ヲ有スル交通機關タ
 ル鐵道ヲ獨占シ鐵道王ノ名ヲ博シタル者チヘアリ此ノ如ク公私ノ利害相衝
 突スルトキハ國家ハ公益ヲ保護センカ爲メ私人ノ所有權ヲ制限スル必要ヲ
 見ル故ニ或ハ強制買収法ヲ設ケ或ハ田野森林鑛山鐵道等ノ所有權ニ種種ノ
 制限ヲ加フルニ至レリ

タルハ此等ノ者ヲ總テ國有ト爲スコト是ナリ此論ニハ他ニ種種ノ理由アリト
 雖モ主トシテ一箇人ト社會全體トノ利害ノ衝突ニ據リ後者ノ被ル弊害ヲ防カ
 ントスルニ基クモノナリ(五)

此形式ヲ以テ經營スルニ適スルモノナリ例ヘハ鐵道運河汽船海底電線信用
 保險ノ事業等ノ如キ是ナリ

産業組合

産業組合トハ共同事業ノ經營ニ由リテ組合員ノ産業又ハ經濟ノ發達ヲ企圖ス
 ル自由組合ヲ謂フ

註 自由組合ト云フハ組合ニ加入スルト否トハ全ク各人ノ隨意ニシテ一
 域内ニ居住スルコト若クハ一定ノ職業ニ従事スルノ故ヲ以テ其意思ニ反シ
 テ加入ヲ強制セララルカ如キモノニアラサルヲ謂フナリ之ニ反シテ産業ニ
 關スル組合ニシテ強制的ノ性質ヲ備フルモノアリ例ヘハ重要物產同業組合
 産牛馬組合ノ如キモノ是ナリ共同事業ノ經營ト云フハ各人カ生計ノ爲メ若
 クハ産業ノ爲メニ單獨ニ行フヘキ手續ノ一部分若クハ全部ヲ組合ノ方式ニ
 依リテ共同ニ經營スルコトヲ謂フナリ

産業組合ノ組合員ハ組合ノ資本ヲ形成スルカ爲メニ若干ノ金額ヲ拂込ムヘキ
 モノナリ而シテ組合員ノ組合ノ義務ニ對スル責任ハ定款ノ定ニ依リテ無限責

任タルコトアリ有限責任タルコトアリ若クハ保證責任タルコトアリ産業組合
 カ他ノ企業的團體ト異ナル所ハ組合員ノ社會上ニ於ケル地位及ヒ組合員カ此
 種ノ團結ニ依リテ達セント欲スル目的ニ在リ他ノ企業的團體ハ主トシテ中等
 以上ノ者ヨリ成リ其組合員カ團體ニ依リテ達セント欲スル目的ハ事業ヨリ生
 スル純益ヲ收ムルニ在リ之ニ反シテ産業組合ニ於テハ其組合員ハ主トシテ中
 等以下ノ者ヨリ成リ且ツ組合員カ團體ヲ形成スルハ之ヲ以テ各自ノ社會上ノ
 地位ヲ保持シ若クハ上進スルノ自助的手段ト爲ナンカ爲メナリ
 産業組合ハ其爲ス所ノ仕事ノ種類ニ基キテ之ヲ區別スルトキハ左ノ如ク分類
 スルコトヲ得ヘシ(産業組合法第一條)

- 一 信用組合
- 二 販賣組合
- 三 購買組合
- 四 生産組合

又一般經濟上ノ性質ニ據リテ區別スルトキハ左ノ如クニ分ツコトヲ得ヘシ

- 一 生計ノ費用ヲ節約センカ爲メニスル組合
- 二 大企業ノ競争ニ對シテ小企業ノ經濟上ノ獨立ヲ保持センカ爲メノ組合
- 三 労働者ノ地位ヲ高メテ之ニ獨立ナル經濟上ノ地位ヲ得セシメンカ爲メノ組合

第一種ノ組合ニ屬スルモノハ住家ヲ建築シテ労働者ニ與ヘテ購拂込ノ方法ニ
 依リテ達ニ之ヲ被等ノ所有ニ歸セシメ之ニ依リテ永ク不慮ナル家賃ヲ仕拂フ
 ノ負擔ヲ免レシムルモノ又ハ消費組合即チ日用品ヲ一經ニ買入レテ組合員ニ
 分配シ之ニ依リテ各人カ簡便獨立ニ小賣商人ニ付テ買フヨリハ低廉ニシテ且
 ツ品質佳良ナルモノヲ得セシムルモノ等是ナリ消費組合ノ大ナルモノニ至リ
 テハ附屬ノ工場ヲ備ヘ日用品ノ一部ヲ製造スルモノアリ

此組合ハ小額ノ資本ノ拂込ノ外組合員ニ對シテ求ムル所ナシ隨テ職業ノ何タ
 ルヲ問ハス何人ト雖モ之カ組合員タルヲ得ヘシ故ニ之ヲ組織スルコトハ最も
 容易ナリ隨テ各種ノ産業組合中其起原最も早ク最も廣ク流布シタルモノナリ

第二種ノ組合ニ屬スルモノハ信用組合購入組合販賣組合精製組合機械組合等

是ナリ

此組合ハ組合員ニ常ニ低廉ナル信用ヲ供シ組合員ノ要スル生産原料ヲ一纏ニシテ廉價ニ購入シ組合員ヨリ集メタル生産品ヲ一括シテ之ヲ彙類分集シ若クハ之ニ加工シテ之ヲ卸賣商ニ賣リテ賣得金ヲ多カラシメ各個人ハ時時使用スル必要アルモ餘リニ高價ニシテ各自之ヲ備フルコト能ハサルカ如キ機械等ヲ使用セシムルコト等ニ因リ組合員タル小企業者ニ從來大企業ニノミ伴ヒタル經濟上好都合ナル條件ヲ供シ之ニ依リテ大企業者ニ對シテ小企業ノ經濟上ノ獨立ヲ保持セシメントスルモノナリ此種類ノ組合ハ前ニ述ヘタルカ如ク共同ノ經營ニヨリテ一部分ノ生産手續ノ費用ヲ低廉ナラシムルコトニヨリテ組合員ニ大企業ニ伴フ利益ヲ得セシムルコトヲ以テ主タル目的ト爲スモノナルカ故ニ組合員タルモノハ實力ノ餘リ豊ナラサル中産以下ノ者ニシテ信用組合ヲ除ク外ハ同種類ノ營業者ナラサルヘカラス又産業ノ種類カ生産手續ノ一部分ヲ分離シテ經營スルコトヲ許スモノナラサルヘカラス而シテ同種ノ營業者ハ其生産品ヲ販賣スルニ於テ相互ニ競争スルモノナリ而シテ彼等カ組合ヲ

又適法ニ公債ノ借換ヲ爲シ得ヘキモノナルヤ否ヤニ由リ合法的公債ノ借換ト、
 違法の公債ノ借換ト二者ニ分ツコトヲ得ヘシ

第一 合法的公債ノ借換トハ借換ヲ要スル公債ノ體様カ借換ヲ爲スモ契約ノ條件ニ反スルコトナキ場合ヲ指スモノニシテ反面ヨリ觀察スレハ有期臨時支拂公債及ヒ永遠公債ノ据置期限ヲ超過セル場合ノ如ク政府カ之カ償還ノ期限ニ對シ契約上毫モ制限ヲ受ケサル場合ノ借換ヲ謂フ

第二 違法の公債ノ借換トハ借換ヲ要スル公債ノ體様カ借換ト相抵觸スル場合ヲ指スモノニシテ反面ヨリ觀察スレハ有期臨時支拂公債及ヒ永遠公債ノ据置期限内又ハ其他ノ公債ノ如ク政府カ之カ償還ノ期限ニ對シ契約上既ニ制限ヲ受ケタル公債ノ借換ヲ謂フ

第三 強制的公債ノ借換トハ其借換ヲ要スル公債ノ合法ナルト違法ナルトヲ問ハス之カ債權者ニ元金ノ償還ヲ爲スコトナク總テ新公債ノ交換ヲ強制スル借換ヲ謂フ

第四 任意的公債ノ借換トハ其借換ヲ要スル公債ノ合法ナルト違法ナルトヲ

問ハス之カ債權者ニ元金ノ償還ト新公債ノ交付ニ對シ選擇ノ自由ヲ與ヘタル借換ヲ謂フ

上述スル所ニ據リ公債ノ借換ニシテ合法ニシテ且ツ任意ナルトキハ常ニ債權者ヲ害スルコトナクシテ人民ノ負擔ヲ輕減スルコトヲ得ヘク財政ノ整理上重要缺クヘカラザル行動ニ屬スルモノタリ然レトモ公債ノ借換ニ對シテハ國家經濟上弊害アリト論スル者アリ其言ニ依レハ公債ノ利子低下スルトキハ之ト共ニ一般營業上ノ利潤ヲ減シ一般産業ノ不振ヲ來スヘシト云フニ在リ此論者ハ同一ノ根據ニ由リ營業上ノ利潤減スルトキハ物價ノ下落ヲ來シ社會全般ニ利益アリト反論スル者ト俱ニ論理上前提ニ於テ誤レルモノナリ如何トナレハ營業ノ利潤ノ高低ハ公債利子ノ上下ニ因リテ之ヲ左右シ得ヘキモノニ非サレハナリ蓋シ公債ナルモノハ必スシモ同一ノ狀況ヲ有スル市場ニ於テ募集シ得ヘキモノニ非ス政府ハ同一ノ信用ヲ有スルモ金融市場ノ狀況ニ左右セラレテ常ト爲シ殊ニ戰時事變等ニ際シテ然リトス此ノ如ク事情ヲ異ニシタル場合ニ募集シタル公債換言スレハ利子ノ歩合異ナル各種ノ公債ノ存在ハ公債ノ價

格ノ變動ヲ來スノミナラス同一ノ政府ノ募集ニ係ル公債ニヤツテ或種類ノ者ハ高ク或種類ノ者ハ低ク常ニ相統一スル所ナクシテ動搖常ナキハ政府ノ信用上財政ノ整理上不可ナルコト言テ埃タス隨テ公債ノ借換ノ利益ハ單ニ或出ノ減少人民負擔ノ輕減ノミニ止マルモノニ非ス

公債借換ノ條件ハ(第一)合法ナルコト即チ借換ヲ爲ス權利ヲ有スルコト(第二)債權者ニ對シ元金ノ償還請求權ヲ認ムルコト即チ任意的借換ナルコト(第三)政府ノ信用大ニシテ市場又好況ヲ呈スルコトノ三者ニ在リ蓋シ政府ニシテ公債ノ借換ヲ強制スル場合ニ在リテハ固ヨリ條理ヲ破リシモノナルヲ以テ茲ニ之ヲ論述スルノ要ナキモ苟モ任意的借換ヲ爲サンニハ事實借換ノ實效ヲ擧グルコトヲ期セスンハ非ス故ニ一方ニハ政府ノ信用厚クシテ債權者カ政府ニ對スル不安ノ念慮ニ驅ラレテ之カ元金ノ償還ヲ求ムルカ如キコトナク一方ニハ金融市場好況ヲ呈シテ金利亦低落セル場合ナラスンハ非ス任意借換ニシテ元金ノ償還ヲ望ム者多キトキハ實ニ政府ノ信用ノ薄弱ヲ示スノミナラス財政ノ紊亂ヲ來スヘキモノタルヲ以テ金融市場ノ狀況ヨリ債權者ノ種類現存公債ノ市場

價格等ヲ對照シテ慎重ノ措置ヲ執ルコトヲ要ス普通各國ノ財政家ハ借換ノ標準トシテ其公債價格ノ平價ヨリ一割以上ニ上ルコトヲ條件ト爲スモノノ如シ價格下落ノ場合ニ借換シテ公債償還ノ義務ヲ拋棄シ政府破産ノ失態ヲ來セシハ既ニ佛蘭西大革命ノ際ニ於テ見ル所タリ

上述スル所ニ據リ公債ノ借換ハ新進國又ハ戰後平和ニ復舊セシ場合等ニ於テ最も多ク之カ適用ヲ見ルコトヲ得ヘキコトヲ知ルヘシ如何トナレハ其公債ノ利子ニ比シテ市場ノ利子下落スルコト多クレハナリ現ニ我邦ノ如キ明治十九年一月以來兌換制度ヲ行ヒタルヨリ一般ノ金利俄ニ下落シ六分以上上利附ノ在來ノ諸公債ハ皆額面以上ノ價格ニ上騰スルニ至リシヲ以テ同年十月勅令第六十六號ヲ以テ整理公債條例ヲ發布シ五分利附ニテ五箇年掲置キ五十箇年ノ定期臨時支拂公債ト爲シ一億七千五百萬圓ヲ限リテ募集スルコトト爲シ明治二十六年ニ至リテ六分以上上利附ノ公債ハ悉皆之ヲ償還シ了リ其間借換ノ爲メ生シタル利子ノ差益ハ二百五十萬圓ヲ上ルニ至リタリ

公債ノ借換ヲ行フニ當リ研究スヘキ問題ハ割増借換法ニ依ルヘキヤ割引借換法ニ依ルヘキヤ又ハ平價借換法ニ依ルヘキヤニ在リ換言スレハ公債ノ借換ニ際シ元金ヲ減少スヘキカ増加スヘキカ又ハ同額ト爲スヘキヤニ在リ但割増借換法ハ利子ノ輕減ヨリハ寧ロ公債ノ元金ノ償却ヲ目的トスルモノニシテ割引借換法ハ利子歩合ノ點ヨリ多分借換ノ便宜ヲ得ヘキモ割引ニ因リ元金ヲ増加シテマテ借換ヲ爲ス必要ナク割引其モノノ不可ナルハ既ニ前章ニ於テ説明セル所ナリ彼ノ一千八百八十三年英國カ額面百磅三分利附ノ公債ヲ額面百八磅二分半利附ニ借換ヘシカ如キ正ニ此弊習ヲ襲ヒタルモノナリトス

公債借換ハ一千七百十六年始メテ行ハレシ以來現時各國財政ノ整理上此方法ニ依ラサルモノナシ茲ニ各國ニ於ケル公債借換ノ歴史ヲ叙述スルハ無用ノ業ニ非サルヘキモ寧ロ財政學ニ於テハ少シク餘論ニ奔ルノ嫌ナシト爲ササルヲ以テ茲ニハ英國ハ借換ニ因リ大ニ經費ヲ節減スルコトヲ得シモ一方ニハ割引借換法籤札附又ハ年金附公債發行ノ愚ヲ學ヒシ爲メ幾分カ借換ノ效驗ヲ削減シ佛蘭西ニテハ債權者カ多ク議會ニ勢力ヲ占メシヨリ公債ノ借

換ハ政府當初ノ契約ヲ無視シテ人權ヲ蹂躪シ中産以下ノ者ヲ苦厄ニ陥ルモノナリトシテ一時借換ノ進歩ヲ妨ケシコトアルヲ一言スルモ止ムヘシ

第三節 公債利子ノ引下

茲ニ公債ノ利子ノ引下ト稱スルハ政府カ公債ノ管理上借換以外ノ方法ニ依リテ公債ノ體様ヲ變更スル重ナル場合ヲ指スモノニシテ通常償還期限ノ變更ト相伴フヲ例ト爲スモノナリ

合法ニシテ且ツ任意ナル公債ノ借換ハ財政ノ整理上最モ缺タヘカラザル手段トシテ國家ノ信用ヲ増加スヘキ一手段タルニ拘ラス公債ノ利子ノ引下ニ至リテハ其合意ニ出ツルト強制ニ出ツルトニ論ナク常ニ財政逼迫ニ際セル不祥ノ現象トシテ國家ノ信用ヲ減損スヘキ例外ノ手段タルヲ常ト爲スモノナリ蓋シ國家ノ行動カ私人ノ行動ニ比シテ財政上特種ノ性質ヲ具スル所以ノモノハ一ニ國家ト私人ト其信用ノ性質程度ヲ異ニスルニ存スルヲ以テ其當初ノ契約ノ體様ヲ變更スルカ如キハ國家ノ信用自體ノ根本ヨリ破毀スルモノニ外ナラザ

レハナリ

第一款 合意ニ出ツル利子引下

合意ト強制ト孰レカ條理ニ適フヘキヤ字義其モノノ解釋ヨリスルモ一見其是非ヲ斷言スルニ疑ナキモノニ屬スルモ公債ノ契約變更ニ於テハ合意ニ出ツル利子引下ハ却テ財政上ノ弊害大ナルモノアルヲ見ルハ又奇異ナル現象ト謂ハスンハ非ス然レトモ少シク其實例ニ就キ觀察スレハ合意ニ出ツル利子ノ引下カ財政上却テ困難ヲ重ヌル所以ノモノ又之ヲ解スルニ苦シマサルヘシ今合意ニ出ツル利子ノ引下ト強制ニ出ツル利子ノ引下ニ付キ重ナル相違ノ點ヲ舉クレハ次ノ如シ

合意ニ出ツル利子ノ引下ハ事實債權者ノ強制ニ起因スルコト多シ
強制ニ出ツル利子ノ引下ハ債務者ノ強制ニ起因スルヲ常トス
之ヲ公債其モノノ種別ニ依リ反面ヨリ觀察スレハ
合意ニ出ツル利子ノ引下ハ外國債ニ多ク

強制ニ出ツル利子ノ引下ハ内國債ヲ常トス

會ホ之ヲ其經過ニ依リテ判斷スレハ

政府カ強制ニ出ツル利子ノ引下ヲ爲シテ債權者事實ハムナク默從シタルトキハ強制ニ出ツル利子ノ引下成立シ若シ之ニ對シテ債權者反抗セルトキ又ハ政府カ事實契約ノ不履行ニ基キ債權者進ミテ政府ニ交渉セルトキ合意ニ出ツル利子引下成立ス

然レトモ予カ此論結ヲ下セルハ唯多數ノ場合ニ付テ言フモノニシテ當初ヨリ當事者雙方ノ正當ノ合議ニ出ツル場合ナシト言フニ非ス而シテ若シ政府ノ財政カ契約ノ履行ヲ難シト爲ストキハ所謂正當ノ合議ニ出ツル利子引下ハ又決シテ非難スヘキモノニ非サルノミナラス好箇ノ方法ナリト謂ハスンハ非ス如何トナレハ政府不幸ニシテ財政逼迫シタルトキ強テ契約ノ履行ヲ爲サントセハ却テ財政ノ紊亂ヲ累テ人民ノ負擔甚重ニ失シ國家全般ニ及ホス災害大ナルノミナラス債權者自體モ却テ得ル所ナキニ終ルヘキハ私人ノ債務關係ニ於テモ常ニ見ル所ニシテ此際或ハ利子ヲ引下ケ又ハ償還期限ノ延期ヲ爲スハ雙方

ニ於テ利益アルモノト謂ハスンハ非ス但シ信用ハ失ヒ易キモ得ルニ難キモノナルヲ以テ成ルヘク契約ノ履行ニ勉メ戰時事變ノ際又ハ國民納稅力ノ餘裕ナキニ至レル時等巴ムナキノ場合ニ於テ最後ノ手段トシテ用フヘキモノナリ

正當ノ合意ニ出ツルモノ其例固ヨリ稀ナリトス私立會社ニ在リテ千八百六十七年以後四箇年間利子ノ支拂ヲ停止セル葡萄牙鐵道會社ノ如キ西班牙ノ「アラゴス、バムベリユン、パーセロ」ナ線路ノ如キハ成功セル實例トシテ認メラ

ル所ナリニ所謂政府ノ不履行等ニ伴ヒ債權者ノ強制ニ伴フ所謂外國債ノ利子ノ引下ノ場合ハ其例甚タ多ク其害毒ノ大ナルコト既ニ第三章第三節第三款ノ下ニ縷述セル所ニシテ固ヨリ財政ノ行動上例外ノ場合ト認ムヘキモノナルヲ以テ此ニ之ヲ省畧スベシト爲ス然レモ英國、フランス、ドイツ、オーストリア、プロシヤ、露國、西班牙カ英佛、和、白等ヨリ募集セル所謂コルヌツラ公債ハ千八百三十一年ノ協議ニ因リ五分ノ一ハ五分利附公債トシテ直チニ償還シ殘餘ノ五分ノ四ハ三分利附トシテ年年四十分ノ一宛支拂フコトトシ支拂未済ノ利子モ額面ニ繰

込ミ列リシカ後千八百三十四年及七千八百七十六年ノ協議ニ因リ又變更スル所アリタリ。一、正當ノ公債ノ發行ノ爲メニ、公債ノ發行ノ正當ノ國ハ三「チ」ニ「ス」政府カ千八百六十三年及七千八百六十五年ニ募集セル七分利附公債モ利子支拂ノ義務不履行ニ因リ英佛伊ノ干涉ヲ受ケ一方ニハ支拂未済ノ利子ヲ元金ニ繰込ミ一方ニハ七分利附ヲ五分利附ニ減シタリ。且テ、公債ノ發行及政府ノ外國債ニ至リテハ千八百七十六年英人「グー」シエン氏債權者ノ總代トシテ當時七億八千萬圓ノ公債ノ處分ニ付キ協議ヲ盡シ短期公債四千餘萬圓ハ額面二百圓ヲ百六十圓トシテ償却スルモノトシ別ニ一億七千萬圓ノ五分利附保證公債ト五億九千萬圓ノ七分利附會合公債ヲ起シ借換ニ依リテ之カ整理ヲ計ラントセシモ不幸ニシテ實效ヲ奏セス千八百七十八年再ヒ財政委員會會合シテ多少ノ修正ヲ加ヘ遂ニ今日ニ至レリ。

第二款 強制ニ出ツル利子引下

政府財政上ノ困難ハ強制ニ出ツル場合ヨリ事ハ合意ニ出ツル場合ニ多シトハ強制ハ合意ヨリ條理ニ適合セリト云フニ非スシテ合意ニ出ツル場合ハ多ク事實債權者ノ強制ニ出ツル場合多キカ故ニ等シク一方カ意思ノ自由ヲ失フニ於テハ政府カ自由ヲ失フ場合ハ事實財政ノ困難大ナリト云フニ外ナラス然レトモ條理ヲ基礎トシテ論スレハ一ハ少クトモ形式ニ於テ合意タルヲ失ハサルノミナラス其債權者ヲシテ事實強制ニ出ラシムル所以ノモノハ債務者ノ債務ノ不履行其他不法ノ行為ニ原因セルモノタル以上ハ自己ノ債務不履行ニ乘シテ不法ノ契約變更ヲ強制スルニ比スレハ固ヨリ同日ノ論ニ非サルヘキナリ況ヤ正當ノ合意ニ出テシ場合ニ於テヤ、
 強制ニ出ツル公債ノ變更ニシテ最モ不法ナルモノハ債務其モノノ取消ニ在リ而シテ其實例ハ固ヨリ稀ナルモ多ク北米合衆國ニ於テ行ハレ千八百四十一年「ミスシ」ッビ州ニ於ケル負債取消ヲ以テ嚆矢ト爲シ千八百四十八年ニ至リテハ「フロリダ」ミチガン「アルカ」ン「サ」諸州亦此不法ナル惡例ヲ襲用シタリ利子ノ支拂停止ニ至リテハ當時尙ホ五州ノ多キニ上レリ近時ニ至ルマテ合衆國ノ公債カ歐洲ニ於テ信用ヲ失墜シタル亦毫モ怪シムニ足ラサルナリ

第四節 公債ノ課稅物件ト爲スノ可否

公債ノ移轉及ヒ所得ニ對シ租稅ヲ課スルノ可否ハ從來學說實際共ニ區區ニ數レ現時ニ於テハ課稅說一般ニ多數ヲ占ムルモ其移轉及ヒ所得共ニ課稅スヘキヤ又外人所有ノ公債ニ對シテ課稅スヘキヤニ至リテハ學說未タ歸一スル所ナシ

非課稅論者ノ論據トスル要點ハ凡ソ次ノ四點ニ歸著スルモノノ如シ

- 第一 公債ノ課稅ハ政府ノ信用ヲ害ス
 - 第二 債務者カ債權者ニ對シ其債權ニ付キ課稅スルハ條理ニ反スルモノナリ
 - 第三 公債ノ課稅ハ其價額ノ下落ヲ來シ結局政府ノ損失ヲ來スモノナリ
 - 第四 公債ノ賦課ハ他ノ動産ニ課稅スルヨリ遙ニ困難ナリ
- 第一及ヒ第二ノ論點ハ根本ニ於テ誤謬ニ陷レル僻見ナレトモ佛國等ニ於テハ古來ヨリ所謂公債借換反對ト同一ノ觀念ニ支配セラレ屢課稅ノ問題起リシニ拘ラス近時ニ至ルマテ賦課セラレザリシ論據ニシテ北米合衆國ニ於テ猶ホ公

債ノ募集ニ際シ之カ免稅ヲ特約スルカ如キ吾人ノ屢見ル所ナリ蓋シ課稅ノ目的ハ政府ノ收入ニ在ルモ之カ賦課ノ原則ハ各自ノ納稅力ニ公平且ツ平等ヲ期スルニ在リ而シテ通常如何ナル租稅ト雖モ時ト所ニ因リ皆多少ノ不公平ヲ免ルルコト能ハス常ニ之カ公平ヲ期センカ爲メ修正ヲ試ムルハ各國實例ノ證スル所ニシテ此際獨リ政府カ公債ノ所有者ニ限り之カ免除ヲ爲スカ如キハ故意ニ不公平ヲ作爲スルモノニシテ管ニ條理ニ反スルノミナラス又政府ノ信用ヲ害スルモノト謂ハスンハ非ス如何トナレハ公債ノ募集ニ於テハ國家ハ私法上ノ國庫トシテ債務關係ニ立ツモノナレトモ租稅其モノハ國家カ公法上ノ主體トシテ公平平等ニ貸財ノ徵收ヲ命スルモノナレハナリ其收入ノ性質ニ於テ其主體ノ性格ニ於テ二者劇然タル軫域ヲ有シ互ニ相混淆スルコトヲ許サケルモノナリ公債ノ債主タルカ故ニ之カ免稅ヲ爲スハ特定人間ノ私法上ノ關係ヲ以テ一般國民ニ對スル租稅ノ賦課ヲ左右セントスルモノニシテ第一第二共ニ專ニ反對ノ論結ヲ爲スヘキモノト謂ハスンハ非ス

第三ノ論點ハ第一第二ニ比スレハ比較的根據アル說ナリト雖モ第一(租稅ハ單

ニ公債ニシテ賦課スルモノニ非スレバ他ノ財産ニ對シテモ等シク賦課スヘキモノナルヲ以テ公債ノ利益ノ増減ハ同時ニ他ノ財産ヨリ得ル收入ノ増減ト相伴ヒ公債ニ限リテ賦課ノ爲メ之カ價格ノ下落ヲ來スノ理ナク(第二)公債ノ賦課ハ間接ニ一種ノ利率ノ變更ト看ルヘキモノニシテ條理上強テ利子ヲ引下ケテ一方ニ賦課ヲ免除スヘキ理ナシ彼ノ伊太利ニ於テ千八百六十四年以來公債ノ價格上騰シ而モ其年ヨリ財政ノ困難ニ迫ラレ一割二分三厘ノ重稅ヲ課シタルカ如キ實例ハ又第三論點ノ詳論ナルヲ證スルニ餘アリト謂フヘシ

第四ノ論點ハ予ハ公債其モノノ移轉ニ付キ課稅スル場合ニハ非賦課論者ニ左袒スルモノナリ是レ千八百七十一年佛蘭西議會ニ於テ提出セラレ大多數ヲ以テ否認セラレシモノナリ蓋シ利子又一割賦ヲ生スル證書ノ賣買ニ租稅ヲ賦課スルハ之ヲ他ノ動産ニ賦課スルヨリモ遙ニ困難ナルモノニシテ殊ニ公債ニハ記名無記名ノ別アルカ故ニ記名證書ノ場合ニハ之カ不便ヲ感スルコト尠キモ無記名證書ノ場合ニ至リテハ法律上動産ト同視シ之カ賣買讓與ノ便宜ヲ計リシモノナルヲ以テ事實其移轉アル毎ニ一定ノ賦課ヲ爲スノ不可ナルコト又言

ヲ埃タサレ所ナリ之ヲ要スルニ公債ノ移轉ニ賦課スルハ現時公債カ金融界ニ於ケル特種ノ效能ヲ減却スルニ等シク延テ公債其モノノ價格ノ暴落ヲ來シ之ヲ效用ヲ失ハシムルモノト謂フヘキナリ但シ公債ノ所得ニ賦課スルハ條理ニ適合シ而モ又困難ヲ感スルコト極メテ尠シ殊ニ英國ノ如ク所得稅トシテ其利子支拂ニ際シ稅額ヲ差引クハ最も簡便ニシテ且ツ隱蔽遁脫ノ患ナク最も公平ヲ期スルニ易キモノト謂ハスハ非サルナリ

終ニ臨ミ外國人ノ有スル公債ノ所得ニ對シ課稅スルノ可否ヲ一言スヘシ外國人ハ我治下ニ在ル者ニ非ス故ニ之ニ國內ノ政費ヲ負擔セシムルハ條理ニ悖反セルモノニシテ之ニ課稅センニハ條約ニ依ルコトヲ要スヘク又此ノ如キ條約ハ事實締結セラレルコトナシトハ反對論者ノ論點トスル所ナリ之ニ對シテハ或ハ外人ハ當初ヨリ一定ノ賦課率ヲ除キタル利率ニテ之カ公債ノ募集ニ應ジ之ヲ公債ヲ購入シタルモノトシカ故ニ之ニ賦課スルハ不可ナル所ナシト論シ或ハ外人ニ支拂ヲ利子ハ正貨ナルヲ以テ利子ノ免除ニ加フルニ正貨ト紙幣ノ差異ニ因ル打歩ヲ外人ニ利セシムルハ不得策ナルヲミナラス内國人ヲシテ脱

稅ノ途ヲ開クモノナリト論シ消極論者ハ又公債ト租稅トハ公私全ク相異ナルモノナルカ故ニ公債ノ條件ヲ承諾シテ募集ニ應ジ又ハ購入ヲ爲シタル外國人ニ對シ租稅ヲ賦課スルハ違法ナリトシ又伊太利等ノ實例ヲ引證シテ內國人ハ其手數經費ノ大ナルカ爲メ積極論者ノ論スルカ如キ脫稅ノ患ナキノミナラス事實却テ外國人ノ手ヨリ內國人ノ手ニ吸收セラレルモノナリト駁論スル等學說實際區區ニ岐レテ歸一スル所ナキモ手ハ本問題ノ如キハ國際法上最モ簡單ナル問題ナリトス消極論者ト雖モ外國人カ其資産營業又ハ職業ニ依ル所得ハ其本店所在地ノ法律ニ從ヒ所得稅ヲ納付スルヲ原則ト爲スコトヲ拒ムコト能ハナルヘシ是レ其所得ヲ得ル所以ノモノハ主トシテ其本店所在地ニ基クカ故ニ外ナラス今一國ノ公債ニ於テ其利子ヲ支拂ヒテ一定ノ所得ヲ與フル所以ノモノハ一ニ其公債ヲ發行セル國家ノ行動ニ基クモノタル以上ハ公債ノ所得ニ賦課スルコトニ對シ根本ヨリ非難スルニ非スルハ其公債ノ所有者ノ內國人タルト外國人タルト其公債ノ内地ニ存在スルト否トニ因リ之カ所得稅ニ限リテ賦課ノ有無ヲ別クノ理由ヲ見サルモノナリ我邦ニ於テハ明治三十二年二月法律第

十七號ニ依レハ第三條ニ於テ此法律施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子ナルモノヲ第二種トシテ其支拂ヲ受ケル金額ヲ標準トシテ第三種ト等シク同一ノ所得稅ヲ賦課スルコトト爲セシハ予ノ所記ト全ク相合致スルモノナリト信ス

第六章 公債ノ償還

第一節 緒論

公債ノ償還ハ公債ノ種類ノ異同ニ依リテ其用語ヲ異ニスルヲ例トス特定人ニ對スル場合即チ契約公債等ニ在リテハ支拂ト稱シ紙幣ニ對スル場合ニハ償却ト稱シ所謂償還ナル用語ハ確定公債ニ對スル場合ニ慣用セラレル所ノモノナリ而シテ此等ノ償還ニ在リテ唯紙幣ノ償却ハ少シク他ト其趣ヲ異ニシ一般ニ公債ノ償還ハ之ヲ後ニシ租稅ノ輕減ハ之ヲ先ニスルヲ原則ト爲スニ拘ラス其紙幣タル特性ニ因リ金融市場ノ狀況ニ照シ荷モ濫發ノ傾向ヲ有スルトキハ租稅ノ輕減ニ先チテ仍ホ之カ償却ニ勉ムヘキコトハ屢ニ間接強制公債ノ下ニ論

逸セシ所ニシテ本章ニ於テハ紙幣其他ノ流動公債以外ノ公債主トシテ確定公債ノ償還ニ付テ之ヲ論述スル所アルヘシ

亞米利加合衆國カ南北戰爭ノ永續セルニ由リ紙幣ヲ發行シ公債ヲ募集シ又重税ヲ課スルニ至リ戰後財政ノ困難ハ直チニ之カ整理ヲ爲ササルヲ得タルニ至レリ殊ニ紙幣ノ増發ハ物價ノ暴騰ヲ來シ金融市場ノ變動ハ經濟界ニ重大ナル禍害ヲ及ホセシヲ以テ先ツ紙幣ノ償却ヲ先ニシテ經濟界ノ恢復ヲ企圖スヘキニ租税ノ輕減ヲ先ニセル爲メ紙幣償還ノ吳歎ヲ長カラシメシハ當該政府ノ財政上ノ失策トシテ一般ニ認メラルル所ナリ

公債ノ償還ハ必ス一定ノ順序方法ニ依リテ債務カ排濟セララルコトヲ意味スルモノニシテ合法ナルヘキコト固ヨリ言フ埃タス故ニ前章ニ於テ述ヘタル如ク政府カ強制シテ不法ニ債務ヲ取消シ又ハ其元金ノ變更ヲ爲スカ如キハ之ヲ償還ト謂フコト能ハサルノミナラス豫メ一定セル順序方法ニ依ラシテ支拂ヒシ場合又ハ豫メ償還ニ關スル順序方法ヲ一定スルコトナク不意ニ或ハ急激ニ償還セル場合ノ如キ又正當ナル償還ト謂フコト能ハス蓋シ政府ノ義務ハ重大

ニシテ此カ信用ヲ扶持センカ爲メ償還ニ關シテハ一定ノ順序方法ヲ定メ以テ債權者ニ對シテ公債ノ確實安全ヲ保障スルハ公債其モノノ性質上當然ノ事理ニ屬スルモノアレハナリ

公債ノ償還方法ハ之ヲ二様ノ方面ヨリ觀察スルコトヲ得ヘシ一ハ其公債ノ條件ヨリ觀察タル主觀的觀察ニシテ一ハ其公債償還ノ資金ヨリ觀察タル客觀的觀察ナリ後者ハ別ニ本章第四節公債償還ノ方法ノ下ニ於テ之ヲ論述スヘキヲ以テ茲ニハ前者ニ付キ一言スル所アルヘシ

公債償還資金カ又公債ノ條件トシテ認メラレタル例證シト爲ササレトモ國家信用ノ發達セル今日ニ於テハ之ヲ公債ノ條件ト認メサルヲ原則ト爲スヲ以テ其ニ第四節ニ於テ論述スルハ敢テ妨アリト爲スニ非サレトモ便宜上前者ニ付テハ茲ニ一言スルコトト爲セリ
公債ノ條件ヨリ公債ノ償還方法ニ付キ觀察スレハ通常二様ノ分類ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第一 償還期限ノ一定セララルルヤ否ヤニ依リテ分類セル隨意償還法及ヒ義務

償還法

第二 公債額面ノ全部ヲ償還スルヤ否ヤニ由リテ分類セル額面全部償還法及
ヒ額面一部償還法

第一ノ分類ハ既ニ公債ノ分類及ヒ公債ノ管理ノ二章ニ於テ講述セル所ニシテ
財政上公債ノ目的ハ收支ノ適合ニ在リテ財政ノ負擔ヲ増加シ不便不利ヲ來ス
ニ非サル以上ハ政府カ財政ノ激急ニ拘ラス義務ノ履行ニ牽束セラレ一方ニハ
財政整理ノ爲メ借換其他ノ管理ヲ阻礙シテ償還期限ヲ一定セラルルコトノ不
可ナルハ復タ論ナク近時學說實際共ニ隨意償還法ニ一致セ有期隨時支拂公債
永遠公債等最モ盛ニ行ハルルハ前ニ一言セル所ナリ

第二ノ分類モ年年一定ノ元金ヲ償還スルニ際シ各額面ニ按分シテ各其一部ニ
付キ償還スルハ一見公平ニシテ且ツ穩當ナルカ如キモ債務者ハ非常ノ手數ヲ
増シ債權者ハ又各其額面ノ一部ヲ受クルニ止マルカ故ニ之カ生産的利用ノ便
宜ヲ失フヘキヲ以テ抽籤又ハ番號ヲ以テ額面全部ヲ一部ニ對シテ償還スルコ
ト當事者雙方ノ便宜トスル所ニシテ學說實際共ニ又一一致スル所ナリ

第二節 公債償還ノ可否

公債ハ當初私人間ノ債務ト同一視セラレテ公債ノ償還ハ常ニ政治家ノ唱道ス
ル所ト爲リ政治家ノ留意スル所ト爲リ一方ニ於テハ公債ノ消滅ニ全力ヲ盡ス
ニ拘ラス一方ニ於テハ公債ハ漸次累積シテ益々遞増ヲ見ルニ至リ今日ニ於テハ
國家信用ノ發達ハ公債ノ償還ヲ以テ必要ナル問題トシテ認ムルコトナク又事
實之カ消滅ハ不能ニ屬スルモノト看做サルニ至レリ是レハ公債ノ償還ハ
國庫ノ負擔ヲ減少スルニ在ルカ故ニ公債管理ノ發達ニ伴ヒテ償還ニ依ラスシ
テ之カ負擔ヲ輕減スルコトヲ得一ハ公債償還ニ急ナルノ餘重稅ヲ賦課スルカ
如キハ却テ其弊害ヲ助長スルモノタルコト明カナルニ至リシニ基因スルモノ
ナリ而シテ現時ニ於テハ米國英吉利和蘭等ヲ除キ歐米各國及ヒ其文化ニ沿及
セル東洋南米ノ諸國等ニ在リテハ一般ニ元金ノ償還ニ重キヲ置カス殊ニ近時
永遠公債ノ發達ト共ニ公債ノ償還其モノニ反對ヲ試ムル者相續テ續出スルニ
至レリ此等ノ論者ト雖モ固ヨリ絕對ニ公債ハ償還スヘカラスト云フニ非ス今

其説ヲ分類示スレハ大要次ノ如シ
 殆極論者ノ學説ヲ大別スレハ之ヲ樂天主義ト厭世主義ノ二者ト爲スコトヲ得
 厭世派ノ消極論ハ近時各國ニ於ケル公債ハ漸次累積シテ毫モ減少スル所ナク
 殊ニ隨時支拂公債ノ發達ニ伴ヒ益々遞増シテ又停止スル所ヲ知ラス其弊遂ニ公
 債ニ對スル人民ノ負擔苛重ニ失スルヲ以テ此際公債ノ額ヲ減シ國庫ノ負擔ヲ
 減セントスレハ之ヲ特種ノ方便ニ訴ヘスンハ非ス故ニ或一定ノ期間ヲ定メテ
 政府ノ公債ニ對シ消滅時効ノ制ヲ定ムルヲ可トス是レ近時各國ニ於テ私設ノ
 公共事業ニ對シ一定ノ營業期限ヲ以テ政府ノ所有ニ移スト同一ノ筆法ニ出ツ
 ルモノナリト然レトモ此説ハ一方ニ於テ私設ノ公共事業ヲ無償ニテ官有ト爲
 スニハ或保護補給ヲ認ムルカ如ク公債ノ利子ヲ一定ノ歩合以上ニ上ス等多少
 ノ特殊ノ條件ヲ償權者ニ與アルコトヲ要シ結局其需要ト供給ハ一種ノ年金公
 債ニ決定サルルモノト謂ハスンハ非ス單ニ在來ノ公債ニノミ不法ノ取消ヲ爲
 スハ實ニ不正ノ惡法タルノミナラス一時始息ノ手段タル以上ハ當初ヨリ消滅

時効ノ制ヲ定ムルノ愚ハ寧ロ年金公債ノ不便ヲ忍ブノ勝レルニ如カサルナリ
 樂天派ノ消極論ハ亦之カ論點ヲ二分スルコトヲ得ヘシ一ハ正貨ノ價格減少ヲ
 論據トスルモノニシテ一ハ國民生産力ノ進歩ヲ論據ト爲スモノナリ共ニ元金
 ノ償却ニ依ラスシテ國民ノ負擔ヲ減少セント欲スルニ於テハ一ナリ
 正貨ノ價格ノ下落ヲ論據ト爲ス説ハ貨幣ノ供給絶ニス遞増シ來リ且ツ信用發
 達ノ貨幣ノ代用ヲ爲ス信用證券ノ額ヲ増シ一方ニハ學術上ノ發見發明年ニ其
 多キヲ加ヘ生産分配ノ費用ヲ節省スルヲ得ルニ至リシヲ以テ貨幣ノ使用ヲ節
 省シテ而モ貨幣其モノノ供給遞増シ永遠ノ後ニ於テ金銀礦ノ耗盡シ去ルニ同
 ルマテハ正貨ハ年ヲ逐フテ漸次下落ノ趨勢ヲ呈スルハ爭フヘカラサル事實ナ
 リトス故ニ貨幣ヲ以テ計算サルル公債ハ年ヲ逐フテ之ヲ償還スルニ易ク後世
 ノ人民カ支拂フ負擔ハ前世ノ人民カ支拂フ同額ノ負擔ヨリ一層輕キモノト謂
 ハスンハ非スト其所論固ヨリ一ノ事實問題ニシテ又敢テ非議ヲ容ルヘキモノ
 ニ非スト雖モ此論結ヨリシテ公債ノ償還ヲ永遠ナルヘシト斷定スルニハ尙ホ
 其年々減少スル負擔ノ率換言スレハ金利ノ歩合ノ低下ノ爲メ後世受タル所ノ

利益ハ之カ爲メ年年支拂フ利子ノ損失ヲ償フテ尙ホ剩リアルヤ否ヤヲ研究セ
 スンハ非ス而シテ吾人ハ此問題ニ對シテハ正貨下落ノ速度ハ緩慢ニシテ之ニ
 依リ公債ノ負擔ヲ著シク輕減センコトハ決シテ望ムヘカラサルコトヲ信スル
 者ナリ

〔ヘンリー、シ、アダムス氏ハ合衆國ニ於テ現時有スル公債ノ負擔ヲ著シク減少
 センニハ毎年支拂フ利子ニ更ニ一分ノ十分ノ一ヲ加ヘ總テ其元金ヲ償還シ
 得ヘキ歲月ヲ以テ猶ホ足ラサルヘシト曰ヘリ

國民生産力ノ進歩ヲ論據ト爲ス說ハ文化次第ニ發達シ國民ノ生産力益々増ス
 ルト共ニ公債ノ負擔ハ事實ニ於テ輕減サルルニ至ルモノナリ即チ公債額其モ
 ノハ増減スル所ナキモ之ヲ負擔スヘキ人口ノ増加ト各自ノ富ノ増殖ハ其負擔
 ニ付キ始ト痛痒ヲ感セサルニ至ルヘシト云フニ在リ是レ亦一ノ事實問題ニシ
 テ毫モ非難スヘキ原由ヲ見ス

英國ニ在リテハ一千八百十五年ニ於テ公債利子ノ負擔ハ一國ノ總生産額ノ
 一割五分ニ相當セシモ一千八百八十年ニ於テハ此割合値ニ三分ニ減シタリ

此負擔ノ減少ハ公債償還ノ結果ニ非スシテ國民ノ財力増進ノ結果ナルカ故

ニ假ニ國民ノ財力カ一千八百十五年ノ當時ト同一ナルモノト看レハ公債ノ
 總額ニ於テハ少シク減少サレシモ仍ホ其三分ノ二ハ償還セラレタルモノト

同一ノ結果ヲ生セルモノト謂ハスンハ非ス

佛蘭西ニ在リテハ千八百四十年ノ公債總額ハ八億五千萬弗ニシテ毎年國庫
 ノ負擔ハ國民ノ總生産額ノ千分ノ二十二ニ當リ千八百七十年ニ至リテハ公
 債總額ハ二十七億五千萬弗ニ増加セシモ猶ホ千分ノ二十三ニ過キス即チ實
 際公債ノ總額ニ變更スル所ナシトスレハ千八百七十年ニハ漸ク千分ノ七ニ
 止マリシモノナリ

〔ルロア、ポリュー氏ハ北米合衆國カ利率ノ低落財源ノ發達移住民ノ流入人口
 ノ増殖等異常ノ進歩ヲ爲シ人口ハ八千萬ヨリ一億ニ増加シ殆ト無限ノ境域
 ヲ有スルニ拘ラス公債ノ償還ニ勉ムルハ將來ノ輕微ノ負擔ヲ免レンカ爲メ
 ニ現在重大ナル苦痛ヲ甘スルモノナリト曰ヘリ
 總レトモ此ノ如ク國民ノ生産力カ公債ノ負擔ヲ減スルト共ニ公債其モノ少減

少スレハ尙ホ之カ負擔ヲ一層輕減スヘキハ固ヨリ言フ埃タナルカ故ニ消極論者ハ管ニ此論點ニ一步ヲ進メテ公債ノ償還カ國民ノ生産力ノ發達ヲ阻碍スルカ又ハ償還ヲ爲ササル時ヨリ生産力ノ發達鈍キコトヲ反證スルニ非スルハ進ミテ公債ノ償還ヲ反論スルヲ得ナルモノナリトス而シテヘンリー・アダムス氏ハ消極論者ニ反對シテ左ノ如ク言ヘリ

公債元金ノ償還ハ國民ヲ貧弱ナラシムルモノニ非ス又産業ノ發達ヲ阻碍スルモノニ非ス之ニ反シテ若シ公債ノ元金ヲ存積シテ絶エヌ利子ノ支拂ヲ持續スルトキハ如何ナル國民モ其生産力ヲ消費セザル傾向アリ

其所說大體ニ於テハ予カ一致スル所ナルヲ以テ予カ所說ヲ加味シテ其理由ヲ簡單ニ説明スル所アルヘン蓋シ債務ニ伴フ損害苦痛ハ私人間ニ在リテハ辨濟ノ際ニ在リト雖モ國家ハ私人ト相競争シテ對等ノ地位ニ立テ性質ヲ同シクシ信用ヲ等シクスルモノニ非ス公債ノ發生消滅ハ只資本ノ移轉ニ在リ國家ノ上ヨリ觀ルトキハ其資本ヲ最モ生産的ニ活用セラレタル時ヲ以テ最モ國家ノ溢業ニ利益アリトシ其資本カ何人ノ手ニ由リテ活用セラレルヤハ問フ所ニ非ス

資本カ政府ノ手ニ移ルモ其不生産的ニ消費セラレルコト尠シト爲サナルハ消費公債ナレモノカ公債ニ於テ寧ロ原則タルヲ以テ之ヲ知ルヘシ私人ノ手ニ償還セラレタル資本ハ又同一ニ決シテ不生産的ニ使用セラレルモノト斷言スヘカラサルノミナラス一般ニ信用ノ發達ニ伴ヒ生産的ニ活用セラレルモノナリトス是レ國民ノ生産力年年ノ遞増カ事實ニ於テ證明スル所ナリ公債ノ産業上ニ及ホス弊害ハ之ヲ募集セル當時資本ヲ不生産的ニ消費セラレル場合ニ發生シ此消費サレタル資本ヲ恢復スル勤勞ハ實ニ國民カ荷フヘキ負擔ナリ公債元金ノ償還ニ至リテハ既ニ存在セル資本ノ所有權ノ移轉ニシテ以テ産業ノ盛衰ヲ付度スヘキモノニ非サルナリ

尙ホ一步ヲ進メテ永久ニ一定ノ利率ヲ支給スルコトハ直接ニ生産事業ニ従事スルコトナク租税ノ收入ニ依リテ無爲ニ生活スル一種ノ階級ヲ造出スルモノニシテ一部階級ノ生産ノ發達ヲ障礙スルモノナリ是レ「アダムス氏」ノ公債ノ特續ハ却テ産業ノ進歩ヲ阻礙スト云フ理由ニシテ予ノ贊成セサル所ナリ予ノ反對ハ極メテ簡單ナルモノニシテ事實問題トシテ公債ノ利子ノミニ依リテ生活

ズル階級ハ極メテ少数ナルノミナラス所謂不生産的ノ階級ハ資本ノ所得ニ依
リテ生活スルモノニ非スシテ他ニ巨多ノ人民ヲ見ルコトヲ得ヘシト謂フヲ以
テ足レリトス況ヤ政府ハ無制限ニ財政ノ實力外ニ馳セテ現時非常ノ速度ヲ以
テ増殖スル資本ヲ吸收スルモノニ非サルノミナラス其資金ハ再ヒ民間ニ下ル
ヘキモノタルニ於テヲヤ

第三節 公債償還ノ時期

公債償還ノ可否ニ付キ前節論述シタル所ニ依リ所謂消極論者ノ主張スル所モ
結局公債ハ全ク償還シ得ヘキモノニ非ス又縱令之ヲ償還スルニ十分ナル餘裕
アルモ之ヲ償還スルハ不可ナリト謂フニ非スシテ公債ハ特ニ之カ償還ヲ急ニ
スルコトヲ要セス公債ノ償還ハ公債其モノノ要素ニ非スシテ之ヲ永遠ニ持親
スルハ敢テ弊害ヲ助長スルモノニ非スシテ公債ノ償還ヲ急ニセハ却テ其弊害
大ナルヘシト云フニ過キス故ニ公債ノ償還ノ可否ノ問題ハ其實公債償還ノ時
期ヲ論スルモノト看ルモ又敢テ不可ナルヲ見サルナリ

公債償還ノ時期ニ對シテハ又之カ償還ヲ急ニスヘシト論スル者ト之ヲ急ニス
ルコトヲ要セスト論スル者ト二派ノ別ヲ生ス然レトモ此二説ハ固ヨリ時期ノ
長短ヲ以テ之カ限界ヲ立ツルコト能ハス又限界ノ存スヘキモノニ非ス是レ公
債其モノヲ絕對ニ觀察スルモ其元金ノ總額利子ノ歩合擔保ノ有無其公債元金
ノ用途其他各種ノ體様ニ於テ其趣ヲ異ニスルノミナラス相對ニ觀察スルモ國
家ノ信用金融ノ狀勢公債ノ歴史沿革其他各種ノ狀況ニ於テ其類ヲ異ニスルモ
ノナレハナリ

公債ノ償還ヲ急ニスヘシト爲ス説ハ凡ソ之ヲ次ノ三説ニ分ツコトヲ得ヘシ
第一 道德上一世ノ債務ハ宜シク其一世ニ於テ之ヲ負擔スヘシ今世ノ勢力ノ
結果貯蓄發見發明等ニ因ル利益ハ之ヲ後世ニ殘スヘキモ今世ノ過誤失策其他
未タ辨濟セサル債務ヲ後世ニ貽スハ正義ニ反スルノ譏ヲ免レサルモノナリ

第二 政治上一世ノ債務ハ宜シク其一世ニ於テ之ヲ負擔スヘシ公債ノ償還ノ
有無カ債權者ニ及ホスヘキ利害ハ始ク之ヲ論セサルモ國家カ負フ所ノ債務ノ
高ハ其國ノ財政ノ屈伸力ニ逆比例スルハ言ヲ埃タサル所ナリ國家カ最モ重視

スヘキモノハ國家其モノノ生存問題ナリ國家カ一領戰時事變ニ際シ在來巨額ノ債務ヲ負擔スルカ爲メ新ニ之ニ應スルノ資金ヲ得ルノ困難ハ政治上最モ忌ムヘキ點ト謂ハスンハ非ス

第三 財政上一世ノ債務ハ宜シク其一世ニ於テ負擔スヘシ政府カ財政上ニ意ヲ用ヒテ公債ノ償還ニ勉ムルトキハ財政ノ信用ヲ増加シ公債證書ノ價格ヲ高メ一般利子ノ歩合ヲ減少シ凡百ノ事業爲メニ發達伸張スルヲ得ヘク一國ノ財政ヲシテ緩裕ナラシムルコトヲ得ヘシ

以上ノ所論ハ結局事實問題ニ由リテ之カ是非ヲ決定スルノ外ナキモノナレトモ大體ニ於テ政府ノ債務ヲ私人ノ債務ト同視セル辭見ト謂ハスンハ非ス第一何故ニ後世ニ負擔ヲ貽スハ不可ナルカ若シ今世カ前世及ヒ今世ノ負擔ヲ遺傳シテ面モ共ニ之カ利益ヲ殘ササルトキハ以テ道徳上不可ナルヲ妨ケサルモ彼ノ戰事其他ノ事變ニ因リ一國ノ生存ノ爲メニ生ゼシ負擔ノ如キハ其國ノ臣民トシテ此カ負擔ヲ分擔スルハ猶ホ非理ト謂フヘカラサルノミナラス此カ後世ニ傳フル所ノ利益ニシテ之カ負擔ニ超過スルトキハ其負擔ヲ受タルコト抑テ

整理ニ合フモノト謂フヘキナリ第二政治上既往債務ノ多少カ財政ノ屈伸方ヲ左右スルハ毫モ疑ナシ唯論點ハ事實ニ於テ急遽ニ償還セントスル爲メ巨額ノ經費ノ節減又ハ巨額ノ收入ノ増加ヲ爲スニ由リテ生スル弊害ハ償還ヲ急ニセザリシ爲メ生スヘキ弊害ト孰レカ大ナルヤニ存ス若シ前者ハ常ニ伴フ弊害ニシテ後者ハ之カ弊害ノ發生ヲ必セザルノミナラス其弊害ノ程度亦輕キヲ例ト爲スヲ知レハ論者ノ言又事實ニ於テ妥當ナリト謂フコトヲ得サルヘシ第三財政上利子ノ歩合ヲ減シ凡百ノ事業ノ發達ヲ來シ財政ノ緩裕ヲ奈スハ急激ナル公債ノ償還ニ依ルヘキヤ蓋シ利子ノ歩合ノ高低ハ金融市場ノ複雑ナル現象ニ伴フテ左右セラレ唯リ公債ノ償還ニ依リテノミ之ヲ動かシ得ルニ非スシテ又之カ償還ノ期限ノ如何ハ毫モ關係スル所ニ非サルナリ

之ヲ要スルニ公債償還ノ時期ニ關スル問題ハ一一各箇ノ公債ニ於テ時ト場所トニ依リ之カ事實問題ニ讓ラスンハ非ス然レトモ其償還ノ期間ノ長期ニ亘ルコトハ大體ニ於テ利益多キモ弊害少キコト已ニ第二節ニ於テ上述セルカ如シ隨テ公債償還ノ時期ハ結局次ノ二原則ニ遵フヲ以テ最モ當ヲ得タルモノナリ

下信ス

第一 有害ノ租税ノ廢止ヲ先ニシ公債ノ償還ヲ後ニスヘシ

第二 公債償還ノ時期ハ次ノ二者ヲ消極ノ限界ト爲スヘシ

甲 償還セラルヘキ公債ヨリ不利ナル公債ノ募集

乙 非常ニ重キ租税ノ新設又ハ増率

公債ヲ新ニ募集スル所以ハ稀ニ資金ノ需要時期ノ切迫ニ基スルコトアルモ當ニ巨額ノ經費ヲ要スルニ當リ一時非常ノ重税ヲ課スルノ必要ヲ避クルニ在ルハ本論ノ劈頭ニ於テ詳述セル所ナリ隨テ上述ノ原則ニ對シテハ又之カ非難ヲ加フヘキ餘地ヲ見出スコトナシ唯此ニ大原則ニ伴フ困難ハ次ノ實際問題ニ存セリ

第一 公債ノ償還ニ由リテ生スル利益ト公債ノ償還ニ必要ナル増税ニ因ル損害トノ程度ノ比較

第二 如何ナルモノヲ以テ有害ノ租税ト視ルヘキカ

第三 如何ナルモノヲ以テ非常ニ重キ租税ノ新設又ハ増率ト視ルヘキカ

第一ノ問題ハ要スルニ各箇ノ事實問題ニ於テ政府財政ノ經過ト國民經濟ノ狀況ニ照應シテ之ヲ決定スルノ外ナシ第二ノ問題ニ於テ有害ナル租税トハ要スルニ爲ラニ資本利用ノ動念ヲ減却セシムルヤ否ヤヲ標準ト爲サスルハ非ス蓋シ資本ハ死物ナリ一國生産ノ消長ハ一ニ資本ノ大小ニ加フルニ之ヲ利用スルノ動念ノ存在ヲ埃タスルハ非ス若シ租税ノ賦課苛欲ニ失シ人民爲メニ其資本ヲ利用シテ生産ヲ爲スノ動念ヲ減殺スルニ至ラハ以テ有害ナル租税ト謂フヲ妨ケヤルナリ第三ノ問題ニ於テ非常ニ重キ租税ノ新設又ハ増率トハ要スルニ爲メニ産業上普通一定ノ利潤ヲ侵蝕スルヤ否ヤヲ標準ト爲サスルハ非ス蓋シ文化ノ進歩ハ次第ニ資本ノ増殖ヲ來シ金利ノ歩合ヲ減少シ利潤ノ率ヲ下落スルノ趨勢ヲ見ルニ至リ後世ノ人民ハ前世ノ人民ヨリ低キ利潤ニ満足シテ資本ヲ貯蓄シ又之ヲ活用スルハ爭フヘカラザル事實ナリ然レトモ何レノ時ト處ヲ問ハス必ス或時代ニ在リテハ需要供給ノ原則ニ從ヒ之カ利潤ニ自ラ一定ノ歩合ヲ生シ其歩合ヲ下リテ之カ利潤ヲ侵蝕スレハ必スヤ之カ産業ノ衰退ヲ來シ延テ政府カ自ラ財源ヲ枯渴スルニ至ルモノナリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ之ヲ

重税ト稱スルヲ妨ケサルモノナリ租税ノ原則参照

第四節 公債償還ノ方法

公債ノ償還ニ於テ債權者ノ合意ヲ待タズ強制シテ所定ノ期限外ニ償還ヲ行ヒ時ニハ一部ノ辨濟ヲ以テ債務ノ消滅ヲ強制スルコトアルハ既に前章ニ於テ一言セシ所ニシテ固ヨリ非理違法ノ譏ヲ免ルル能ハサルモノナリ殊ニ彼ノ千八百四十年頃北米合衆國ニ於テ行ハレタル公債ノ取消ニ至リテハ全然公債ノ償還ト視ルヘカラサルコト固ヨリ論ナキナリ

國家カ合法ノ償還ヲ爲スニハ拂戻ヲ爲スト買入ヲ爲スト二様ノ方法アリ固ヨリ市場ノ買入ハ拂戻ヲ爲スヨリ利益アリト思惟セラルル場合ニ限ラルルモノミナラス政府カ償還ノ爲メ買入ヲ爲スニ當リテハ其額固ヨリ大ナルヘキヲ以テ低下セル市價ヲ以テ秘密ニ巨額ノ買收ヲ爲スハ事實不能ニ屬スヘキノモナラス忽チ市場ヲ動かシテ市價ノ暴騰ヲ來シ所定ノ目的ヲ達スル能ハサルニ至ルヲ例トス蓋シ公債市價ノ高低ハ金融ノ狀況及ヒ主トシテ財政ノ借用如何ニ依

ルヘキモノナルヲ以テ市價低下セル際ニ於ケル買入ノ利益ハ拂戻ニ比シテ異常ニ大ナルヘキコト固ヨリ言ヲ俟タスト雖モ事實買入ヲ爲シ得ヘキ政府財政ノ狀況ノ下ニ在リテハ公債市價ノ暴落ハ之ヲ期スルニ難ク市價ノ暴落ハ常ニ政府カ買入ヲ爲スカ如キ餘裕ノ存在セザル場合タルヘキヲ以テ買入ニ由ル償還ニ因リテ巨利ヲ得ルコトハ事實ニ於テ之ヲ見ルコト能ハサルヲ例ト爲スモノナリ

公債償還ノ資金ハ或ハ新公債ノ募集ニ依ルアリ或ハ租税ノ新設又ハ増率ニ依ルアリ或ハ剩餘金ニ依ルアリ或ハ官有財産ノ拂下其他臨時ノ收入ヲ以テスルアリ固ヨリ其方法ヲ一ニセスト雖モ最モ公債償還ノ歴史ニ於テ有名ナルハ減債基金法ナリ減債基金法トハ政府ヨリ年若干額ヲ基金トシテ支出シ之ヲ以テ公債ヲ時價ニテ買上ケ其買上ケタル公債ノ利息ハ又基金ニ編入シテ買上ケニ充ツル法ナリ此法ノ主論者ハ「ブライイス氏」ニシテ氏ハ複利ノ結果ノ大ナルコトニ留意シ利子ノ上ニ利子ヲ加フルトキハ些少ノ元金ト雖モ著シク増額スルカ故ニ當初一志ノ金額ヲ元金トシテ投下スレハ此元金ハ年年之ニ利子ヲ放下ス

ルニ因リテ自ラ増加ヲ來シ終ニハ公債總額ト同額ニ達スルニ至ルヘク且ツ又新公債ニモ一之ニ相當ノ基金ヲ備フレバ該基金ノ利子ノ上ニ利子ヲ生シ次第ニ増加ヲ來スヘキカ故ニ容易ニ之ヲ償還スルコトヲ得ヘシト説ケリ此方法ハ第十八世紀ニアルホール氏之ヲ創設シ同世紀ノ終マテハ此法ヲ以テ公債償還ノ法ト爲セリ然ルニ爾後公債ノ種類著シク遞増シ其公債ノ資金ニ充テタル某税ノ收入豫定額ニ超テ多キモ某公債ノ資金ニ充テタル某税ノ收入豫定額ヨリ下リテ不足ヲ生シ而モ此等各公債ノ資金間ノ流用ヲ許ササルヲ以テ基金總額ニ於テ餘裕アルモ某公債ノ元利支拂ニ故障ヲ生スルノ奇觀ヲ呈スルノミナラス爲メニ管理上非常ノ煩雜ト經費ヲ要スルニ依リワイリヤムビツト氏ハ此等各公債ノ資金ヲ合同シテ一大基金ヲ設ケ以テ便宜各種公債ノ支拂ニ充ツルニ至リタリ然レトモ此方法ハ「ミルトン」リカド等ニ由リテ根底ヨリ其利益無クシテ弊害大ナルコトヲ論難セラレ剩餘金ヲ以テ償還基金ト爲スヘキ原則ハ千八百十九年ニ於テ始メテ事實トシテ認メラルル所ト爲リ千八百二十九年ニ至リテ償還基金獨立ノ制度全廢セラレテ從來其保有セル公債證券ハ總テ

之ヲ棄却セラルルコトト爲レリ(佛蘭西ハ尙ホ政府公債證書ヲ買戻スコトアレハ直チニ之ヲ消却セス其利子ヲ積ミ之ヲ以テ公債償還ノ資ニ充ツルノ法ヲ執レリ) 償還基金法ノ根本ノ誤見ハ基金ヲ以テ公債ヲ買上ケルハ政府カ生産的ニ財産ヲ購入スルモノナリト爲スニ在リ蓋シ公債ノ償還ハ如何ナル方法ヲ執ルモ到底國庫ノ支出ヲ免レタルモノニシテ此方法ハ單ニ人民ニ支拂フヘキ利息ヲ政府カ徴收シテ之ヲ消費スルコトナク流用スルニ止マリ國庫ノ支出ニハ二者増減ナク之カ爲メニ歳出ヲ節約シ人民ノ負擔ヲ輕減スルモノニ非ス故ニ此方法ハ徒ニ巨額ノ資金ヲ不生産ニ積立テテ之カ取扱ノ爲メ特別ノ官署ヲ設ケ財政機關ノ一部タルノ地位ヲ去リテ純然タル一箇獨立ノモノト爲リ此方法維持ノ爲メニ之カ擔保トシテ更ニ新公債ヲ起スカ如キ見識ヲ馴致シ右手ヲ以テ借リ左手ヲ以テ償却スルカ如キ奇觀ヲ演スルノミナラス巨額ノ資金ヲ不生産的ニ蓄積スルハ斯法本來ノ目的ヨリ已ムヲ得サルノ弊害ト觀ルヘキモ多クハ他ニ濫用セラルル爲メ管ニ減債基金ノ本旨ニ背反スルノミナラス其害毒却テ大ナ

ルコトアルニ英國財政史ニ於テ屢々見タル所ナリトス
 (一)ブルボール氏減債基金法開始ノ當初十一年間ハ規則ヲ嚴重ニ恪守セルト共
 ニ公債買上ケノ爲メニ高利公債ヲ募集スルノ見處ヲ演シ徒ニ利子歩合ノ差
 額ト無用ノ手數ト經費ヲ損スルノ愚ヲ學ヒタリ千七百二十七年後ニ至リ
 テハ漸ク濫用ノ端緒ヲ開キ新ニ起ス公債ノ利子ハ基金ヨリ支出スルコトト
 爲シ千七百三十三年ニハ基金ヨリ五十萬磅ヲ割キテ通常經費ニ流用シ翌年
 又二十萬磅ヲ割キ爾後戰時事變ノ爲メ濫用スルコト多カリシヲ以テブライ
 ス氏ノ計算ニ依レハ千七百七十二年マテニハ二十萬磅ノ償還ヲ完ウスヘキ
 豫定ナルニ拘ラス實際償還ヲ了セシモノハ僅僅五分ノ一ニ過キサルノミナ
 ラス一方ニハ殆ト之ニ四倍セル公債ヲ起シタリ一千七百八十六年ウキリヤ
 ム、ビツト兵再ヒ斯法ヲ起シ嚴重ニ之カ濫用ノ弊害ヲ抑制セシモ猶ホ一方ニ
 ハ一億三千八百萬磅ヲ償還シテ一方ニハ五億七千四百萬磅ノ新債ヲ起シタ
 リ
 之ヲ要スルニ公債ノ償還ハ收入ノ剩餘金ヲ以テスルノ外途ナキハ明カニシテ

年年財政ノ緩急ニ應ジ剩餘金ヲ以テ公債償却ノ使途ニ供セズンハ非スハハミル
 トシ氏ノ所謂歲入剩餘ハ獨リ公債ノ償還ニ充ツヘキ真正ノ償却基金ナリトス
 公債償還ノ一大原則ト謂ハスンハ非サルナリ
 之ヲ要スルニ公債ハ國家ノ債務ナリ荷モ其償還カ惡税ノ廢止ニ先チ又ハ爲メ
 ニ惡税ヲ生スルカ如キ結果ニ陥ラサル以上ハ財政ノ緩急ニ應ジテ常ニ之カ償
 還ヲ怠ルヘカラス國家ハ永久ノ法人ナリ信用ハ之ヲ破ルニ易ク之ヲ得ルニ難
 シ國家ハ不法不理ノ手段ニ訴ヘテ一時ノ儉安ヲ計ルヘカラス
 國家ハ合法ニシテ且ツ比較的利益アル範圍ニ於テ公債ノ償還ヲ爲スヘク償換
 (一)依ルモ買上ニ依ルモ拂戻ニ依ルモ其手段ノ是非ハ一ニ時ト處ニ依リテ之ヲ
 決セズンハ非ス
 國家ハ公債償還ノ資金ヲ減債基金法ニ依リテ求ムヘカラス之カ一種ノ變態ト
 視ルヘキ有期年金又ハ終身年金ニ借換ヘテ公債ヲ償還スル方法モ亦等シク之
 ヲ排斥セズンハ非ス國家ハ財政ノ緩急ニ應ジ便宜剩餘金ヲ以テ公債ノ償還ニ
 充ツルコトヲ怠ルヘカラス然レトモ漫然臨時ノ收入ヲ待ツハ公債償還ノ常道

ニ非ス財政ノ緩急ニ應ジ公債費トシテ年々一定ノ繼續費ヲ支出シ公債累積ノ弊ヲ防遏スルコトヲ便ナリトス是レアルベルトガラチン氏ノ創造ニ係ルモノニシテ我邦公債償還ノ方法ハ大體ニ於テ亦相一致スル所ナリ

十八世紀ノ末葉ヨリ十九世紀ノ初年マテハ合衆國ハ等シク償還基金法ニ依リ事實却テ公債ノ總額ヲ遞増シガラチン氏ニ至リテ始メテ英國流ノ有害ナル償還方法ハ排斥シ合衆國政府ノ公債整理ノ基礎ヲ確定シタリ氏ハ表面上世人カ公債償還ノ爲メニ既ニ行フ所ノ施設ヲ破棄スルモノト誤解スルコトヲ避ケンカ爲メ千七百九十五年ノ償還基金法ニ關スル法律ハ之ヲ全廢スルコトナク實質ノ上ニ於テ條文ヲ改正シ在來ノ償還方法ヲ改メテ公債元利金ノ償還支拂ノ爲メニ繼續費トシテ年々七十萬弗ヲ支出スルコトト爲シ(其後八百萬弗ニ増加シタリ)年々ノ公債利子ヲ支拂フ外剩餘額ヲ以テ元金ノ償還ニ充テ千八百十二年ノ戰爭ニ際シテハ合衆國ノ公債ハ殆ト半減シテ四千五百十二萬餘弗ト爲レリ其後千八百十二年ノ戰役ノ結果公債ハ再ヒ増加シテ一億二千萬弗ニ上リシモ氏ノ方針ヲ一貫シテ公債元利支拂ノ歲費ヲ增

加シ千八百三十四年ニ至リ悉皆之ヲ償還シタリ其後千八百六十年ノ南北戰爭ニ於テチエース氏ハ又公債償還基金法ヲ定メシコトアルモ亦失敗ニ了リ國庫剩餘金又ハ繼續公債費ノ方便ニ依リテ財政ノ維持ヲ爲セシムマツカローク氏ノ財政報告ノ明證スル所ナリ

之ヲ要スルニガラチン氏ノ財政策ハ公債費トシテ毎年公債ノ利子支拂額ニ超過セル一定ノ金額ヲ支出スルモノニシテ而モ此公債費ノ支出其モノ及ヒ其用途ハ公債所有者ニ對シテ契約ノ條件トシテ政府ヲ羈束セルモノニ非ス金額ノ流用ハ禁止セラルル所ナク又私有財産ノ如ク利殖スルノ要ナシ流用ヲ禁シテ公債償還ニ特定モラルルノ危險ハ遙ニ流用ノ危險ニ倍蓰スル所アレハナリ公債増加ノ際同時ニ公債ノ償還ヲ爲スハ表面上國家ノ財政ヲ安固ナラシムルノ觀アリテ實ハ公債ノ絕對ノ増加ヲ來ス危險ヲ必然ノ條件トシテ隨伴セシムルモノナレハナリ故ニ公債費ノ支出ハ同時ニ其使用法ニ付キ行政部ニ裁量ノ餘地ヲ與フルコト大ナラサルヘカラス是レガラチン氏ノ大體ニ於テ成功セル所以ナリトス

第七章 地方債

第一節 緒論

第一款 地方債研究ノ必要

自治ノ觀念發達シ公共團體ノ設定ヲ見ルニ及ヒ之カ財政策トシテ地方稅地方債ノ必要ヲ來スハ當然ノ事理ニシテ其大體ノ主旨ハ地方稅ノ章節ニ於テ既ニ一言セラル所ナリトスレトモ國家ノ財政ニ於テ租稅ハ公債ニ先チテ發達セルカ如ク地方公共團體ノ財政ニ於テモ地方稅ハ團體ノ設立ト同時ニ之カ收入ノ重要ナル方法ト認メラレシモ地方債ハ著シク晚レテ發生シ隨テ地方債ニ關スル學說法規ハ之ヲ地方稅ニ比スレハ尙ホ比較的ニ幼稚ニシテ不備缺漏ノ雜多シト爲テサルナリ

茲ニ地方債研究ノ必要ヲ説ク所以ノモノハ一ニ近時地方債ノ發達著シク其增加ノ趨勢ハ必ス將來ニ於テ財政上ノ一大困難ヲ釀成スルノ危險ヲ有スルニ在リ固ヨリ文化ノ發達ハ富ノ増殖ト相待テテ國債地方債ニ論ナク運次其額ヲ増

加スルハ社會ノ大勢ニシテ決シテ非難スヘキモノニ非サルモ特ニ地方債ニ對シテ此カ發達ニ對シ之カ警戒ヲ加フルノ要アルハ

第一 地方債ノ起債ハ國債ノ起債ニ比シテ濫用ノ弊害大ナルコト

第二 地方財政ハ國家財政ニ比シテ其基礎薄弱ナルコト

ノ二點ニ職由スルモノナリ換言スレハ國債ハ其事體ノ比較的重大ニシテ國富ヲ舉ケテ擔保ト爲シ中央政府ノ慎重ナル措置ト國民全體ノ周密ナル監督ニ依ルヲ以テ比較的濫用ノ弊害渺キノミナラス總令多少ノ濫用ニ因リ財政上ノ困難ヲ來スコトアランモ國家其モノノ信用ハ國庫ノ總額ト相待テテ財政ノ紊亂破綻ヲ來スコト尠カルヘキモ地方債ハ地方團體ノ信用ト一地方ノ富ヲ基礎ト爲シ一地方ノ經費ヲ支辨スヘキモノナルヲ以テ濫用ノ弊害比較的多クシテ而

モ財政上ノ紊亂破綻ヲ來スコト尠カラサルヘシト云フニ在リ

地方團體ノ性質ハ大體ニ於テ國家ト會社ト中間ニ位スルコトヲ知ラハ地方債カ大體ニ於テ國債ト社債ト中間ニ位スヘキコト又明カニシテ自ラ本問題ヲ解釋スルニ足レリ今便宜ノ爲メ地方債ト國債ト相異ナル點ヲ列舉シ

方債ノ増加ハ國債ノ増加ト同一ノ見解ヲ以テ解釋スヘカカラサル所以ヲ明カニ
スヘシ

起債ノ主體	國	債	地	方	債
起債ノ權者	國家	國民全體(時ニ外國人) 全國全般(時ニ外國)	公共團體	地方一部ノ國民ニ限ルヲ原則トス	
起債ノ地域		非常公債及ヒ財政上ノ平常公債ヲ原則トス	經濟上ノ平常公債ヲ原則トス	起債額少ナク期間ハ短期ニシテ比較的 高利ナルヲ原則トス	
公債ノ種類		一般募集ヲ原則トス	借入ヲ原則トシ募集ノ適合ニハ限地 募集ヲ原則トス		
起債ノ方法		借換ヲ爲スヲ原則トス	借換ヲ爲ササルヲ原則トス		
公債ノ管理		償還期限不定期ニシテ且ツ期間長ク 償還基金法ニ依ラザルヲ原則トス	償還期限定期ニシテ且ツ期間短ク償 還基金法ニ依ルヲ原則トス		
公債ノ償還					

ヘカラスト
第四 行爲地法説

此説ノ要旨ニ曰ク債權問題ニ付テハ當事者ノ意思ニ從ヒテ準據法ヲ定ムヘキ
ハ債權ノ性質ヨリ生スル結果ナリトス然ルニ當事者カ準據法ヲ定メザルトキ
ハ法律行爲ヲ爲シタル地ノ法律ヲ準據法ト爲ス意思ナリト推定スヘシト我類
舊法例共ニ此説ヲ採用シタルモノニシテ新法例第七條ニ曰ク「法律行爲ノ成立
及ヒ效力ニ付テハ當事者ノ意思ニ從ヒ其何レノ國ノ法律ニ依ルヘキカヲ定ム
當事者ノ意思カ分明ナラザルトキハ行爲地法ニ依ル」ト舊法例ニ於テハ單ニ契
約ノ問題ノミヲ定メタルモ新法例カ廣ク法律行爲ノ成立及ヒ效力ノ準據法ヲ
定メタルハ立法上一步ヲ進メタルモノト謂フヘシ

茲ニ一問題アリ當事者ノ國籍カ全ク同一ナル場合ニ於テ當事者カ準據法ヲ明
示セザルトキハ其本國法ヲ適用スヘキ意思ナリト推定スルコトヲ得ルヤ否ヤ
ノ問題はナリ舊法例ニ於テハ其本國法ヲ適用スヘキモノト定メ外國ノ立法例
及ヒ學說モ亦之ヲ認ムルモノ類ル多シ然ルニ行爲地法説ノ結果トシテ當事者

國際私法 各論 債權 法律行爲ニ因ル債權

ノ國籍ノ異同ハ準據法ノ確定ニ何等ノ影響ヲ及ボササルモノトス蓋シ準據法
 ノ明示ナキトキハ常ニ行為地法ヲ以テ準據法ト爲セハナリ我法例第七條モ亦
 此ノ如ク解釋スルコトヲ得ヘシ
 條件ニ付テモ亦右ノ準據法ニ依リテ管轄セラレルモノトス蓋シ條件ハ法律行
 爲ノ成立若クハ效力ヲ停止又ハ解除スルモノナレハナリ然レトモ條件ト認メ
 ラレタル事件ノ發生ハ當事者ノ豫想シタル國法ノ管轄ニ歸スヘキハ勿論ナリ
 トス例ヘハ一定ノ國ニ當事者又ハ第三者カ歸化スルコトヲ以テ條件ト定メタ
 ル場合ニ於テ果シテ歸化カ成立セシヤ否ヤハ歸化國ノ法律ニ依リテ定マルヘ
 キヤ勿論ナリトス

次ニ準契約ニ因ル債權ニ付キ説明スヘシ
 此種ノ債權ニ付テハ契約ニ依ル債權ト同一ノ準據法ニ依ルヘト曰フ者アリ
 或ハ絕對ニ準契約ヲ爲シタル地ノ法律ニ依ルヘシト曰フ者アリ蓋シ當事者ノ
 意思推定ヲ理由トシテ準契約ノ性質ヲ説明スルハ羅馬法ヲ祖述スル學者ノ唱
 フル所ナレトモ準契約ハ社會上必要ナル行為ノ責任ヲ全カラシムルカ爲メニ

生シタル制度ニシテ準契約ノ名稱スラ今日漸ク法律界ヨリ驅逐セラレントモ
 仍テ契約ト同一ノ法理ヲ以テ之ヲ擬スルコトヲ得ナルモノト信ス學說及ヒ
 立法例ノ趨勢ヲ見ルニ準契約成立地ノ法律ヲ以テ準據法ト爲スニ傾ク我法
 例ノ規定亦然リ第十一條第一項ニ曰ク「事務管理不當利得又ハ不法行為ニ因リ
 テ生スル債權ノ成立及ヒ效力ハ其原因タル事實ノ發生シタル地ノ法律ニ依ル」
 ト故ニ例ヘハ不當利得ニ付テ一言センニ獨逸ニ於テ債權者カ辨濟期ニ至ラサ
 ル債務ヲ錯誤ニ因リテ履行シタル場合ニ債務者ハ債權者ニ向ヒテ返還ヲ請求
 スルコト能ハス今債務者カ我國ニ於テ不當利得ヲ理由トシテ訴ヲ起スモ裁判
 所ハ我民法ニ依リ債權者ニ對シ利益ノ返還ヲ命スルコト能ハス

第二節 不法行為ニ因ル債權

不法行為ニ因ル債權ノ準據法ニ付テハ左ノ學說アリ
 第一 訴訟地法說

此說ニ依レハ不法行為ハ公安ニ關スルカ故ニ訴訟地ノ法律ニ依リテ此問題ヲ

決定スヘシト云フニ在リ然ルニ此說ニハ左ノ弱點アリ訴訟地法ニ依リ不法行為ト看做サレタル行為カ行為地法ニ依リ法律行為ナル場合ニ於テモ行為者ハ訴訟地法ニ依リ其責ニ任セザルヲ得ス又訴訟地カ數多ノ國ニ屬スル場合ニ原告ハ自己ニ利益アル地ヲ選ミテ訴訟ヲ提起スル處アリ故ニ同一ノ行為ニシテ偶然ノ事實ニ依リ被告ノ責任ヲ異ニスルニ至ル又不法行為ニ因ル債權ノ運命ハ不法行為ヲ爲シタル時ニ定マラサルヘカラス然ルニ此學說ニ依レハ不法行為後ニ生スル訴訟ニ依リテ其運命ヲ左右スル處アリ又被告ハ其裁判籍ヲ變更シテ己ニ利益アル訴訟地ニ於テ訴ノ提起ヲ待ツ處アリ是レ被告ヲシテ隨意ニ其責任ヲ定メシムルモノト謂フヘシ此ノ如ク弱點アルカ故ニ此說ハ今日勢力ナシ

第二 行為地法說

此說ニ依レハ不法行為ニ基因スル債權問題ハ總テ不法行為ヲ爲シタル地ノ法律ニ依リテ管轄スヘシト謂フモノニシテ歐洲大陸ニ最モ廣ク行ハレ實際之上ヲ採用スル國亦多キニ居ル然ルニ此說ノ理由ニ至リテハ區區ニシテ一定セス

或ハ不法行為ハ公安ニ關係スルモノナルカ故ニ行為地法ヲ適用スヘシト曰フ者アリ然レトモ外國ノ公安ニ關係スル規定ヲ何カ故ニ內國ニ於テ適用スルノ必要アルカノ問題ハ未タ此說ニ依リテ決定セザレサルモノトス或ハ不法行為者ハ不法行為ヲ爲スニ方リ行為地ノ法律ヲ標準トシテ不法行為ヲ爲スモノニシテ任意ニ行為地ノ法律ニ服從シタリト推定スルコトヲ得ヘシト曰フ者アレトモ是レ亦行為地法說ノ理由トスルニ足ラス何トナレハ不法行為者カ行為地以外ノ法律ヲ以テ準據法ケリトノ意思ヲ表示スルモ有效ナラザレハナリ英米ニ於テハ行為地法說ノ訴訟地法說ノ二ヲ併用セリ我法例ノ規定亦然リ即チ其第十一條第二項ニ曰ク「前項ノ規定ハ不法行為ニ付テハ外國ニ於テ發生シタル事實カ日本ノ法律ニ依レハ不法ヲサザルトキハ之ヲ適用セス」又同第三項ニ曰ク「外國ニ於テ發生シタル事實カ日本ノ法律ニ依リテ不法ナルトキト雖モ被害者ハ日本ノ法律カ認メタル損害賠償其他ノ處分ニアラザレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス」即チ我法例ハ原則トシテ行為地法說ヲ採用シ之ニ訴訟地法說ヲ加味シタルモノニシテ日本ノ法律及ヒ外國ノ法律カ共ニ不法ト認メタル

事實ニアラサレハ不法行為ニ因ル債權ノ準據法ヲ適用セサルコトヲ明カニシ
 唯賠償ノ方法ハ日本ノ法律ニ依リテ管轄セラルヘキコトヲ規定セリ
 不法行為ヲ爲シタル地ヲ確定スルハ頗ル困難ナリトス不法行為ノ主體ト客體
 トカ同一ノ法域ニ存在スル場合ニ於テハ別段困難ナル問題ヲ生セスト雖モ隔
 地不法行為ノ場合ニ行為地ヲ定ムルコト殊ニ困難ナリトス「パール」ノ如キハ犯
 罪ト不法行為トハ同一ノ觀念ナリト說明スレトモ予ハ此說ニ服スルコト能ハ
 ス蓋シ未遂犯ハ一ノ犯罪ナリト雖モ必スシモ不法行為ト爲ルコトナシ例ヘハ
 甲法域ヨリ乙法域ニ在ル人ニ對シ殺意ヲ以テ彈丸ヲ放チタルモ其生命ヲ奪フ
 ニト能ハサルトキハ謀殺又ハ故殺ノ未遂ナレトモ之ニ依リテ身體ニ毫モ創傷
 ヲ與ヘサルトキハ不法行為ト爲ルモノニアラス予ヲ以テ之ヲ觀ルニ不法行為
 ノ場合ニハ決シテ未遂ナシト信ス
 雇人カ爲シタル不法行為ニ付キ雇主カ責任ヲ有スルヤノ問題竝ニ責任ノ範圍
 等ハ何レノ法律ニ依リテ定ムヘキヤハ從來學者間ニ議論アル所ナレトモ雇人
 カ不法行為ヲ爲シタル地ニ於テ雇主カ注意ヲ缺キタリト見ルテ正當トスヘシ

家畜ノ加ヘタル損害ニ付テモ家畜カ實際害ヲ與ヘタル地ヲ以テ不法行為地
 ト看做スヘキモノナラン米國ノ判決例亦然リ又官吏ノ不法行為ニ付キ國家カ
 如何ナル程度ニ於テ責任ヲ有スルヤハ何レノ國法ニ依リテ定ムヘキカ是レ亦
 問題ナリ然レトモ官吏カ職務ヲ行フ際ニ不法行為ヲ爲シタル地ノ法律ヲ適用
 スルヲ以テ公平ヲ得タルモノナルヘシ

同國人間ノ不法行為ニ付テハ本國法ヲ準據法トスヘシトノ說アレトモ英米及
 ヒ我法例等ノ採用セサル所ナリトス

次ニ公海ニ於ケル不法行為ニ付キ一言スヘシ

船舶内ニ於テ不法行為ヲ爲シタルトキハ其船舶ノ屬スル國ニ於テ不法行為ヲ
 爲シタルモノト認メラレ隨テ船舶所屬國ノ法律ハ行為地法トシテ適用セラ
 ルモノナレトモ若シ船舶外ニ於テ不法行為ヲ爲シタルトキハ無主ノ地ニ於テ
 不法行為ヲ爲シタル場合ト同シク適用スヘキ行為地法ナシ

不法行為ニ基因スル債權ノ成立效力消滅等ノ問題ハ總テ行為地法ニ依リテ管
 轄セラルルコト歐洲大陸ノ實例竝ニ我法例ノ認ムル所ニシテ不法行為ニ基因

スル債務ノ範圍モ亦同一ノ準據法ニ依ルヘキヤ勿論ナリトス又時効ヲ以テ消滅原因ト認ムルヤ否ヤノ問題竝ニ時効ノ期間ノ如キモ同一ノ法律ニ依リテ管轄セラルルモノトス
賠償ノ方法ハ内國ノ法律ニ依リテ定マルコト一般ニ認メラルル所ニシテ一國ノ公安ニ關スルト實行上ノ便宜トニ因リテ生シタルモノナリトス
法例第十一條第一項ニ所謂其原因タル事實ノ發生シタル地トハ損害ノ生シタル地ヲ指スカ或ハ不法行為ヲ爲シタル地ヲ指稱スルヤニ付テハ議論アリ或ハ曰ク我民法ニ依レハ不法行為ハ必スシモ債權ノ原因ト爲ルモノニアラスシテ不法行為ニ因リテ生シタル損害カ直接ノ原因タリ故ニ不法行為ノ發生シタル地ト損害ノ生シタル地トハ往往同一ナラサルコトアルヘシ隨テ法例第十一條ノ其原因タル事實トハ全ク直接ノ原因タル損害ノ發生地ヲ指スモノナリト然ルニ他ノ說ニ依レハ損害ハ不法行為ノ結果ナルカ故ニ債權ノ原因ト認ムヘキモノハ不法行為ナリト曰ヘリ若シ果シテ法例第十一條ニ依テ第二說ノ如ク不法行為ノ發生シタル地ハ即チ行為地ナリト謂フモノトセハ涉外的不法行為ノ

聯合ニ行為地ヲ定ムルニ付キ困難ナル問題ニ遭遇スルコトアルヘシ例ハハ外
國ニ於テ不正ノ荷造ヲ爲シタル後此荷物カ到着地ニ於テ不完全ナル荷造ノ爲メニ損害ヲ生シタルトキハ債權ノ原因タル事實ノ發生シタル地ハ到着地ナルカ故ニ此場合ニハ別ニ困難ナル問題ヲ生セスト雖モ他ノ例ニ就テ之ヲ當ハシ
ニ公海ヲ通過スル船舶ノ乗組員ニ對シテ公海中ヨリ名譽毀損ノ行為ヲ爲セタル場合ニ何レノ地カ行為地ナリヤ之ヲ確定スルコト困難ナルヘシ蓋シ到着地ニ於テ荷物カ不完全ナル荷造ニ因リ損害ヲ受ケタル例ハ不完全ナル荷造ヲ爲シタル地ノ法律ニ依ルモ亦到着地ノ法律ニ依ルモ等シク不法行為ナルカ故ニ其間ニ原因結果ノ關係アレトモ之ニ反シテ公海ハ法境ニアラサルカ故ニ此處ニ於テ爲シタル行為ハ法律上何等ノ結果ヲ有スルモノニアラス隨テ此行為ニ因リテ受ケタル名譽ノ損害ハ天災ニ因リテ生シタル損害ト同一ナルヘシ此說ハ實際上頗ル危險ナルカ故ニ涉外的法律行為ノ成立地ニ付テハ立法上特ニ規定ヲ設クルコト必要ナルヘシ然ルニ今日何レノ立法例ヲ見ルモ此點ヲ看過セ
タルハナシ

共同不法行為ニ基因スル債權問題ノ準據法ヲ定ムルコトモ亦困難ナリトス蓋シ共同不法行為ノ主體カ同一ノ法境ニ在リタル場合ニハ困難ヲ感セスト雖モ若シ共同不法行為ニ基ク債權ノ規定ニ付キ反對ノ規定ヲ設クル國ニ於テ共同不法行為ヲ爲シタル場合ニ於テハ行為地ハ數多ク法境ニ分ルルカ故ニ何レノ地ノ法律ヲ適用スヘキヤ是レ亦第十一條ニ依リテ決スル能ハサル所ナリトス

第三節 債權讓渡ノ效力

如何ナル債權ヲ讓渡スコトヲ得ルヤ否ヤハ債權其モノノ準據法ニ依リテ定マルモノトス隨テ不法行為ニ因ル債權ヲ讓渡スコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ハ第十一條ニ依リテ決定セラルヘキモノトス而シテ第三者ニ對スル債權讓渡ノ效力モ亦債權自體ノ準據法ニ依ルヘキコトハ一般ノ學說並ニ實例ノ認ムル所ナレトモ唯我法例ハ此問題ニ付キ特別ノ規定ヲ設ケタリ法例第十二條ニ曰ク債權讓渡ノ第三者ニ對スル效力ハ債務者ノ住所法ニ依リテ蓋シ債權ノ準據法ニ依リテ第三者ニ對スル效力ヲ管轄セシムルトキハ第三者ハ往往不利益ヲ受ク

ルコトアルカ故ニ第三者ヲ保護センカ爲メニ設ケタル規定ニ過キス

第四節 隔地的法律行為

一定ノ法律行為カ隔地的法律行為ナルヤ否ヤヲ民法上確定スルコトハ往往困難ナル問題ニシテ殊ニ電話電信等ノ方法ニ依リテ意思ヲ表示スル場合ニ民法學者中議論アルコトハ人ノ知ル所ナレトモ民法學者ハ往往隔地的法律行為ノ性質ヲ定ムル標準ハ時ニ在ルコトヲ忘却スルモノノ如シ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ隔地ナル文字ハ寧ロ隔時ト改ムヘキモノカ然ルニ國際私法上隔地的法律行為ヲ確定スル標準ハ時ニ在ラスシテ土地ニ在リ即チ意思表示ヲ爲ス者ト意思表示ヲ受クル者トカ法律ヲ異ニスル土地ニ在ル場合ニ於テハ其法律行為ハ隔地的法律行為ナリトス此ノ如ク國際私法上隔地的法律行為ノ性質ヲ確定スルコト容易ナレトモ表意者ノ存在スル地ノ法律ヲ準據法ト爲スヘキヤ受信者ノ存在スル地ノ法律ヲ適用スヘキヤノ問題ニ付テハ國際私法學者中未タ定論ヲ見ス隨テ各國ノ實例頗ル區區ナレトモ我法例第九條ハ發信主義ヲ採用セリ蓋シ

論理上ヨリ言ヘハ了知主義ハ最モ肯綮ニ中レルカ如シト雖モ取引ノ便利ヲ計ルカ爲メニハ發信主義ニ贊成セラルヲ得ス我民法ハ法律行為ノ總則トシテハ受信主義ヲ採用シ契約ニ付テハ發信主義ヲ採用シタルカ故ニ法律ノ體裁上不完全ナリトハ往往人ノ非難スル所ナレトモ我法例ハ隔地の法律行為中最モ多ク生シ得ヘキ契約ヲ主眼トシテ遂ニ發信主義ヲ採用セリ法例第九條ニ曰ク法律ヲ異ニスル地ニ在ル者ニ對シテ爲セタル意思表示ニ付テハ其通知ヲ發シタル地ヲ行爲地ト看做ス契約ノ成立及ヒ效力ニ付テハ申込ノ通知ヲ發シタル地ヲ知ラサリシトキハ申込者ノ住所地ヲ行爲地ト看做スト我レカ契約ニ付キ申込ノ發信地ヲ行爲地ト看做シタルハ蓋シ申込ハ契約中主位ニ在ルモノナレハナリ

第三章 物權及準物權

第一節 物權

物權ノ準據法ニ付テハ古來ニ主義アリ一ハ動産、不動産同則主義ニシテ一ハ動産、不動産異則主義是ナリ後者ハ其由來頗ル古ク今日ニ於テモ之ヲ認ムル實例並ニ學說尠カラス故ニ先ツ此主義ニ付キ説明スヘシ蓋シ動産、不動産異則主義トハ物權ノ目的物カ動産ナルト將タ不動産ナルトニ依リテ準據法ヲ異ニスルモノニシテ法則學說以來學者間ニ傳承セラレタルモノナリトス

不動産上ノ物權ニ付テハ不動産所在地ノ法律ニ依リテ管轄セラルコトハ古來一定セル實例ニシテ學說モ亦多ク之ヲ認ム然ルニ此原則ノ理由ニ至リテハ議論一定セス第一說ハ假ニ主權說ト名クヘキモノニシテ不動産ハ國土ノ一部分ナルカ故ニ外國ノ法律ニ依リテ內國ノ不動産上ノ物權ヲ管轄スルトキハ一國ノ公安ヲ擾亂スルモノナリト云フニ在リ第二說ハ假ニ經濟說ト名クヘキモノニシテ不動産ハ大ナル價值ヲ有シ所在地ノ經濟ニ大關係ヲ有スルモノナリ故ニ經濟政策ヲ異ニスル外國ノ法律ニ依リテ不動産上ノ物權ヲ管轄スヘカラサルモノナリト云フニ在リ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ物權ハ其目的物ノ所在地ニ於テ實行スヘキモノナルカ故ニ所在地以外ノ法律ニ依リテ物權ノ得喪ヲ定ムル

モ實益ナキニ依ルカ故ニ此原則ヲ生シタルモノナリト謂フヲ得ヘキカ又第三
 説トシテ天賦人權説ヲ唱フル者アリ此説ハ佛蘭西伊太利等ノ學者間ニ行ハル
 ルモノニシテ吾人カ財産ヲ享有スルハ天賦ノ權利ナリ隨テ權利者ノ本國ニ於
 テ定メラレタル物權ハ其他ノ國ニ於テモ之ヲ認メサルヘカラスト此説モ亦服
 スヘカラス何トナレハ如何ナル人カ權利者ナルヤハ權利者ノ屬人法ニ依リテ
 決定セララルルモノナルカ故ニ畢竟循環論理ニ陥ルモノナリ

動産不動産ノ區別ハ古來不動産所在地法ニ依リテ確定セラレ又不動産ニ關ス
 ル物權ノ取得移轉喪失モ總テ不動産所在地法ニ依リテ管轄セラレタリ

動産ニ關スル物權ノ準據法ニ付テハ古來種種ノ變遷ヲ經タリ法則學說ハ動産
 上ノ物權ニ付テハ人ノ住所地法ヲ適用スヘント論シ今日尙ホ之ヲ傳フル者尠
 カラスト雖モ所謂人ノ住所地法トハ所有者又ハ一般ノ權利者ノ住所地法ナリ
 ヤ若クハ占有者ノ住所地法ナリヤ曖昧ナリ今日ノ學者中往往所有者ノ住所地
 法ナリト曰フ者アレトモ此説カ循環論理ニ陥レルコトハ天賦人權説ヲ批評ス
 ルニ際リ述ヘタルカ如シ其他ノ權利者ノ住所地法ナリト解釋スルモ亦同一ノ

缺點アリ唯占有者ノ住所地法ナリト解釋スルトキハ右ノ弊ニ陥ラサルカ如シ
 ト雖モ共同占有ノ場合ニ於テ其住所地法カ規定ヲ異ニスルトキハ何レノ法律
 ヲ適用スヘキヤ此ノ如キ缺點アルカ故ニ「ザビニ」以テ動産ハ總テ其所在地法
 ニ依リテ管轄セララルトノ説ヲ唱フル者及ヒ之ヲ採用シタル立法例判決例漸
 ク多キヲ加フルニ至レリ然ルニ此説ノ理由ニ至リテハ學說一ナラス多數ノ學
 者ハ主權説ヲ認ムレトモ「ザビニ」氏ハ任意服從説ヲ唱ヘリ予ハ此場合ハ不動
 産上ノ物權カ其所在地法ニ依リテ決定セララル理由ト同一ナリト信ス

動産ハ常ニ其位地ヲ轉シ容易ニ其所在地ヲ確定スルコト能ハストノ非難ハ往
 往所在地法説ニ對シテ世人カ加フル所ナリ茲ニ於テ「ザビニ」ハ動産三別ノ性
 質ヲ唱ヘタリ

學者間ニ議論アルハ第二種ノ動産ニ關スルモノナリ或ハ其動産カ最後ニ到着
 スル港ノ法律ヲ適用スヘントノ説ヲ唱フル者アリ然レトモ茲ニ最モ議論ノ存
 スルハ右ノ動産カ到着地ニ達セサルニ際シ讓渡サレタル場合ナリ此場合ニ讓
 渡ヨリ生スル物權移轉ノ問題ハ舊所有者ノ住所地法ニ依ルヘキヤ或ハ新所有

者ノ住所地法ニ依ルヘキヤ將タ又到著地ノ法律ニ依ルヘキヤノ問題ヲ生ス
 我法例第十條ノ規定ハ如何ナル動産ニモ全然適用シ得ヘキヤ否ヤニ付テハ往
 往議論ヲ聞ク所ナレトモ其規定ノ一般的ナル點ヨリ觀レバ「サブビニ」フ三別説
 フ採用セサルカ如シ然ラハ如何ナル時ニ於ケル所在地法ニ依ルヘキヤ我法例
 ハ此點ニ付キ全ク一般ノ學說ヲ採用シ權利得喪ノ原因タル事實ノ完成シタル
 時ニ於ケル所在地法ニ從フヘキモノト爲セタリ
 物權ノ得喪ニ關スル法律行為ノ方式ハ物權ノ目的物ノ所在地法ニ依ルヘキコ
 ト今日一般ノ學說並ニ實例ノ認ムル所ナリ而シテ我法例第八條ノ規定ハ果シ
 テ此一般ノ學說及ヒ實例ヲ採用シタルモノナルヤ否ヤハ問題ナリトス第八條
 但書ハ行為地法ヲ排除シタルモノニシテ物權ニ關スル法律行為ノ方式ハ其法
 律行為ノ效力ヲ定ムル法律タルヘキコトヲ規定セリ若シ學者ノ解スル如ク第
 八條所謂法律行為ハ第七條ノ法律行為ト其範圍ヲ同シラスルモノトセハ第七
 條ノ法律行為ノ準據法中ニハ行為地ヲモ包含スルカ故ニ第八條但書カ法律行
 爲ノ效力ヲ定ムル法律ニ依ルヘキコトヲ宣言スル實用ナカルヘシテ予ヲ以テ之

ヲ見ルニ第八條所謂法律行為ハ最モ廣キ意味ヲ有スルモノニシテ第七條所謂
 法律行為ハ物權ニ關セサルモノノミヲ指稱スルモノト信ス歐洲大陸ノ學說ニ
 依レハ物權其モノノ問題ト物權得喪ノ原因タル法律行為ノ問題トヲ區別シ物
 權自體ノ問題ノミ所在地法ニ依ルヘキモノトセリ然ルニ英米ノ學說ハ物權得
 喪ノ原因タル法律行為ハ物權ニ密著ノ關係アルモノナルカ故ニ同シク所在地
 法ニ依ルヘシト曰ヘリ我法例ニ於テモ恐クハ英米ノ學說ヲ採用セタルモノニ
 シテ物權得喪ノ原因タル法律行為ハ第十條ニ於テ規定セラレタルモノト信ス
 隨テ第八條ノ所謂行為ノ效力ヲ定ムル法律ナル文字中ニハ物權所在地法ヲモ
 包含スルモノト解釋セサルヘカラス
 法例ハ登記スヘキ權利ヲ物權ト同視セリ蓋シ各國ノ法律中往々登記ヲ要スル
 權利ヲ以テ物權ト等シキ效力ヲ有セシムルモノアレハナリ
 物ノ種類並ニ物權ノ種類ハ目的物ノ所在地法ニ依ルヘキモノトス物權ノ種類モ
 亦然リ例ヘハ日本及ヒ歐洲大陸諸國ニ於ケル所謂抵當權ハ英國ニ於テ之ヲ認メ
 ス又獨逸新民法カ定メタル用益權ハ我國ニ於テ之ヲ認メサルカ如キ即チ是ナリ

占有者カ取得スル果實ノ問題ハ果實ヲ生スル時ニ於ケル所在地法ヲ適用スヘキヤ或ハ占有開始ノ時ニ於ケル所在地法ヲ適用スヘキヤ議論アリ所ナレトモ占有者カ如何ナル要件ヲ具フルトキハ果實ヲ取得スルコトヲ得ルヤ否ヤハ占有ノ效力ト看ルコトヲ得ヘキカ故ニ占有開始ノ時ニ於ケル所在地法ヲ準據法ト定ムヘキモノト信ス我法例ノ精神亦茲ニ在ルモノトス

不動産ノ取得時効ニ付テハ不動産ノ所在地法ニ依ルヘキコト古來一般ニ認メラレタル所ナレトモ動産ノ取得時効ニ付テハ種種ノ學說アリ占有者ノ住所地法ニ依ルヘシトノ說ハ時効ノ起算並ニ時効ニ關スル規定ノ證明ハ困難ナリトノ事實ヲ以テ其論據ト爲セリ然レトモ證明ノ困難ナルヤ否ヤハ事實ノ論ナルカ故ニ姑ク之ヲ措キ占有者ノ住所地法說ハ共同占有ノ場合ニ通セサル說ナリトス即チ共同占有者ノ住所地法カ各異ナリタル規定ヲ設クタル場合ニ於テハ何レノ國ノ住所地法ヲ適用スヘキヤ明カラヌ又所在地法說ヲ唱フル者ハ曰ク取得時効ノ基礎ハ長期ヲ占有ニ在リ而シテ占有カ目的物ノ所在地法ニ依ルヘキモノトセハ取得時効ノ問題モ亦目的物ノ所在地法ニ依ラサルヘカラスト而シテ時

効ノ期間ヲ異ニスル法據ヲ轉換シタル動産ニ付テハ時効カ完成シタル法境ノ法律ヲ適用スヘキモノトス例ヘハ甲地ニ於テハ二箇年ノ占有ヲ要シ乙地ニ於テハ四箇年ノ占有ヲ要シ而シテ丙地ニ於テハ五箇年ノ占有ヲ要スル場合ニ動産カ甲地ニ於テモ將タ乙地ニ於テモ時効期間満了セザルトキハ單ニ取得時効ノ基礎ヲ爲シタルニ過キササルコトハ「ザビニ」氏ノ主張ヲタルカ如シ隨テ甲乙二法境ニ於ケル占有ノ時間ハ之ヲ通算セサルヘカラス故ニ右ノ動産ニ對スル取得時効ノ期間ハ最後ノ所在地法ニ依リテ定マルト雖モ若シ甲乙二法境ニ於テ四箇年ヲ經過シタルトキハ其後一箇年ノ占有ニ依リ時効完成スヘシ

茲ニ一疑問アリ即チ不動産カ三箇ノ法境ニ跨リタル場合ニシテ往往學者カ重國籍ナル名稱ヲ付スルモノ是ナリ此ノ如キ現象ハ領地割讓ノ際ニ往往生スル所ニシテ割讓前ヨリ此不動産ヲ占有スル者ハ割讓後何レノ國ノ法律ニ依リテ時効問題ヲ管轄スヘキヤ予テ以テ之ヲ觀ルニ此種ノ不動産ノ占有者ハ一人ナレトモ其目的物タル不動産カ同一ノ法律ニ依リテ管轄セラレタルカ故ニ甲地ニ於ケル不動産ニ對スル時効ハ其地ノ法律ニ依リテ決定セラレ乙丙二地ノ不

動産モ亦其各所在地法ニ依リテ決定セララルモノト信ス
 地役權ニ付テハ要役地ノ存在スル國ノ法律ヲ適用スヘシトノ說頗ル多シト雖
 モ此說ニ依レハ承役地ヲ所有スル者ノ利益ヲ犧牲ニ供スル虞アリテ以テ之
 ヲ觀ルニ此場合ニ於テ兩國ノ法律ニ依リテ之ヲ決定スヘキモノト信ス又要役
 地法ヲ適用スヘシトノ說ハ左ノ場合ニ於テ實行スルコト能ハサルヘシ即チ甲
 乙二法境ニ在ル土地カ何レモ其國ノ法律ニ依リテ要役地ト認メラレタル場合
 是ナリ

第二節 準物權

第一款 著作權

著作權ニ關スル準據法ヲ說明セントセハ先ツ其性質ヲ明カニスルコトヲ要ス
 然ルニ著作權ノ性質ニ付テハ歐洲學者中百年前ヨリ議論アル所ニシテ其說ヲ
 大別スレハ左ノ如シ

第一 物權說

著作權ヲ以テ物權ナリト爲ス說ノ根據ハ著作權ハ中間人ヲ要セス且ツ諸人ニ
 對抗シ得ルノ二點ニ在リ此說ハ俾國ヲ始メ其他ノ國ニ於テ廣ク傳播セシ所ナ
 レトモ所謂物權トハ所有權ナルヤ否ヤニ付テハ更ニ議論アルカ如シ而シテ之
 ヲ所有權ナリト斷定スル學者ハ著作權ニ排他的ノ性質アルコトト其目的物カ
 有形物ナルコトヲ證論セリ然レトモ予ヲ以テ之ヲ觀レハ著作權ハ物權ニ非ス
 蓋シ其目的物カ有形物ニ非サル點ニ於テ少クトモ普通ノ物權ニ非サルヲ知ル
 ニ足ル所有權說ヲ唱フル者ハ文書圖書等ハ言語思想等ヲ有形ニ表ハシタルモ
 ノナルカ故ニ著作權ノ目的物ハ有形物ナリト云フト雖モ思想若クハ言語ヲ表
 示シタル紙片ヲ目的物ト爲スニ非スレテ紙片上ニ表ハレタル思想カ却テ目的
 物ナリ假ニ之ヲ有形物ナリトスルモ期限附所有權ハ今世ニ於テ認メサル所ナ
 リ然ルニ著作權ハ何レノ國ニ於テモ必ス期限附ナラサルハナシ是ニ由リテ之
 ヲ觀レハ著作權カ少クトモ所有權ニ非サルコト明白ナリトス然レトモ其對世
 的ナルト中間人ヲ要セサルトノ二點ヨリ觀察スレハ物權ニ頗ル相類似スル所
 ノモノアリ

ノミ然ルニ著作權ノ保護ハ決シテ國內ノモノニ非ストノ議論漸ク勢力ヲ占ムルニ至リ千八百七十八年諸國ノ學者美術家佛蘭西ニ會合シテ大會ヲ開キ此問題ノ研究セシカ爾後開會數次ニシテ遂ニ最後ノ大會ヲ瑞西國ベルン府ニ開キ一ノ條約案ヲ議定シ且ツ同時ニ此條約案ヲ議案トシテ萬國會議ヲ開カレンコトヲ瑞西政府ニ勸告セリ瑞西政府ハ此勸告ヲ容レテ前後數回萬國會議ヲ開キ終ニ千八百八十六年ベルン府ニ於テ開キタル最後ノ會議ニ於テ此問題ヲ議定スルニ至レリ此條約ハ實ニ二十一條ヨリ成リ外ニ追款及ヒ議定書アリテ歐米其他ノ文明國ハ一般ニ其當事國ト爲レリ今其大要ヲ舉クレハ左ノ如シ

此條約ハ平等主義ヲ原則ト爲ス但シ本國ニ於テ與ヘタル保護ノ程度ヲ超ユルコトヲ許サス而シテ此條約ノ所謂本國トハ國際私法上通例謂フ所ノ本國ニ非スシテ發行地ヲ指稱スルモノトス而シテ著作權ノ保護ヲ受クル主體ハ條約當事國ノ臣民ナルコトヲ要セサルモノトス若シ數多ノ國ニ於テ發行シタル場合ニ其保護ノ程度カ異ナルトキハ保護期間ノ最モ短キ國ヲ以テ其本國ト看做ス未發ノ著作物ト雖モ保護ヲ受タル程度ニ於テハ同一ナリトス

ノ便宜ノミニ付テ言ヘハ此取扱ハ予ノ所論ニ比シテ簡便ナル所多シ

地價修正ニ伴フ納稅義務ノ區分ニ付テハ以上述フル所ヲ以テ畧盡シタリト信ス然レトモ以上ノ説明ト共ニ茲ニ併セテ地價修正ヲ要スヘキ土地ノ異動アルニ當リ其修正地價ヲ適用スルニ至ルマテノ間ニ於テハ孰レノ地目ニ依リ地租ヲ徵收スヘキヤラ論スルハ全ク無關係ノ事項ヲ論述スルニアラスト思考スルカ故ニ少シク之ニ付テ説明スル所アラントス

地目變換地類變換調整等ヲ爲シタルトキハ從來ノ地價ニ依リ地租ヲ徵收シ六百日十年日又ハ鐵下年期間ノ年ヨリ始メテ修正地價ヲ適用スト言フハ是レ其土地ニ適用スヘキ地價ニ付テノミ謂フモノニシテ之ニ依リテ其土地ノ地目ヲ定ムルモノニアラスト換言スレハ從來ノ地價ニ依リテ地租ヲ徵收スト言フハ決シテ從來ノ地目ニ對スル地租トシテ之ヲ徵收スト言フノ意ヲ有スルモノニアラザルナリ地租ハ其土地ノ地目ニ依リ其定率及ヒ納期ヲ同シウセサルヲ以テ土地異動ノ場合ニ於テハ何レノ時ヨリ其地目ヲ變スルモノナルヤハ研究の空論ニアラスト實際上ノ應用問題ナリ地價修正ニ關シテハ法律ニ於テ規定ス

ル所アルヲ以テ之ニ依リテ適用スヘキ地價ヲ定ムヘキモノナリト雖モ地目ノ變更ニ至リテハ法律ニ於テ何等ノ規定スル所ナキヲ以テ一ニ事實ニ依リテ之ヲ定メサルヘカラス而シテ事實ニ依リテ地目ヲ定ムト言フト雖モ事實土地ノ異動ヲ爲シタルトキハ容易ニ之ヲ知ルヲ得サルヲ以テ予ハ法律ノ認メタル事實ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノナリト言ハント欲ス即チ法律ノ規定ニ於テ事實アリテ後地價ヲ据置キ又ハ年期ヲ付與スヘキモノト爲ストキハ法律ハ事實ヲ認ムルモノト謂ハサルヘカラスアルヲ以テ此場合ニ於テハ事實發生ノトキ地目ヲ變更スヘキモノナリ之ニ反シテ法律ノ規定ニ於テ事實ノ發生前地價ヲ据置キ又ハ年期ヲ付與スヘキモノト爲ストキハ法律ハ地價ヲ修正スヘキトキ又ハ年期ノ終了スルトキ事實發生スルモノト爲シタルモノト謂ハサルヘカラスアルカ故ニ此場合ニ於テハ地價ヲ修正スヘキトキ又ハ年期ノ終了シタルトキ地目ヲ變更スヘキモノナリ地目變換地價變換及ヒ開拓ノ場合ニ於テハ變換又ハ開拓成功シタル後地價ヲ据置キ又ハ銀下年期ヲ付與スルモノナルカ故ニ變換地價變換ヲ爲シタルトキ其地目ヲ變更シ開拓地ハ銀下年期ノ許可ヲ受ケタルト

キ現況ニ依リ地目ヲ付スヘキモノナリ之ニ反シテ開墾地又ハ地價据置年期ノ許可ヲ受クル土地ハ其成功前ニ於テ開墾ノ届出ヲ爲シ又ハ年期ノ許可ヲ受クルモノナルカ故ニ地價ヲ修正スヘキトキ又ハ年期満了ノトキ其地目ヲ變更スヘキモノトス但シ實際ノ取扱上ニ於テハ地目又ハ地類變換地ニ付テハ變換ナル事實發生シタル時ニ於テハ未タ其年ノ地租ヲ納メサルトキハ茲ニ地目ノ所ノ如キ取扱ヲ爲スト雖モ變換ナル事實發生シタル時ニ於テハ既ニ其年ノ地租ノ全部又ハ一部ヲ納メタルトキハ其翌年ヨリ地目ヲ變更セラルルモノノ如シ蓋シ年ノ中間ニ於テ變換ヲ爲セタル場合ニ於テ其年ノ地租ハ孰レノ地目ニ依リテ之ヲ徵收スヘキカニ關シテハ地租條例中何等ノ規定スル所ナシ然ルニ其年ノ地租ヲ納メタル前後ニ依リテ區別ヲ爲スハ官民共ニ最モ便宜ナル所ナルヲ以テ法文ノ缺如スル場合ニ於テ官民ノ共ニ便トスル所ニ從ヒテ適用ヲ爲スハ寧ロ法律ノ精神ニ適スルモノト謂ハサルヘカラス

土地異動ノ場合ニ於テ其修正地價ヲ適用スヘキ時期以前ニ在リテ更ニ異動ヲ爲シタルトキハ前ニ述ヘタル如ク地價ノ修正ヲ爲スヘキ時期ニハ自ラ影響ヲ

及ホスモノナリ此場合ニ於テハ地目ノ變更ニ關シテモ亦其影響ヲ受クヘキモノナリト雖モ之ヲ説明スルハ煩細ニ過タルヲ以テ茲ニハ之ヲ述ヘス但シ上來記述シタル所ニ依リ之ヲ應用スレハ實際ニ於テ誤リキモノナリト信ス

第三 地價ノ低減

土地カ荒地ト爲リタル場合ニ於テハ所有者ノ出願ニ因リ被害前ノ供用ヲ完ツスルヲ得ルニ至ル期間ヲ計リ相當ノ免租年期ヲ許可スルモノナリト雖モ元來免租年期ヲ定ムルハ復舊期間ノ豫測ニ過キサルヲ以テ年期經過後ノ實際ニ就テ之ヲ見ルトキハ時トシテ事實ハ豫測ニ反シ其土地ハ尙ホ復舊ニ至ラサル場合鮮シト爲サス然ルニ此ノ如キ場合ニ於テ年期滿了ト共ニ直チニ原地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノナリトセハ天災ノ爲メ土地使用ノ利益ヲ減損シタル者ニ對シ其復舊ニ至ルマテ地租ヲ免スルコトト爲シタル法律ノ趣旨ハ尙ホ未タ貫カサル所アリト謂ハサルヘカラス故ニ免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノ及ヒ原形ニ復シ難キモノハ法律ハ更ニ免租年期ノ延長ヲ爲スヲ許スコトハ前既ニ之ヲ述ヘタリ而シテ其既ニ荒地ノ形狀ヲ呈スルコトナキモ

地味未タ被害前ノ状態ニ復セサルモノニ對シテハ相當ノ期間ヲ定メ其間低減シタル地價ニ依リテ其地租ヲ徵收シ以テ復舊ニ至ルマテハ地租輕減ノ特典ヲ受ケシメ豫測免租年期ノ足ラサル所ヲ補フヲ得セシメタリ(地租條例第二一條 第二三條)

地租條例第二一條ニ依レハ地價ノ低減ハ七割以下之カ年期ハ十五年以内ニ制限セラルルヲ以テ低價年期ヲ定ムルニハ土地ノ現況ヲ按シ七割以下ノ低減十五年以内ノ年期ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラス如何ナル場合ニ於テモ七割以上地價ヲ低減シ又ハ十五年以上ノ年期ヲ定ムルコトヲ得サルモノナリ且ツ低價年期ニ關シテハ法律ハ總年期ノ許可ヲ許ササルカ故ニ一タヒ付與シタル年期ハ更ニ之ヲ延長スルコトヲ得サルモノナリ

(イ) 年期滿了シタルトキ 一定ノ期間地價ヲ低減スト爲シタル場合ニ於テ其期間滿了シタルトキハ低減ノ效力自ラ消滅スヘキモノニシテ更ニ説明ヲ加フルヲ要セス

(c) 荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキ地租條例施行規則第一三條ノ低價年期中ノ土地ニシテ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルカ爲メニ荒地免租年期ヲ出願シ其許可ヲ受ケタルトキハ既ニ有スル低價年期ハ消滅スルモノトス蓋シ低價年期トハ一定ノ年間地價ヲ低減シテ地租ヲ徵收スルヲ謂フモノニシテ荒地免租年期トハ年期ヲ定メ其間地租ヲ徵收セサルヲ謂フモノナリ地租ヲ徵收スルト之ヲ徵收セサルトハ相反撥シタル事項ニシテ同時ニ行フコトヲ得サルモノナリ土地所有者ニシテ既ニ低價年期ノ特典ヲ有スルニモ拘ラス更ニ是ト併行スルコト能ハサル免租年期ノ許可ヲ請求シタルトキハ其意前者ノ利益ヲ棄テテ後者ノ利益ヲ得ントスルニ在ルモノト謂ハサルヘカラス故ニ免租年期ヲ許可スルトキハ低價年期ハ自ラ消滅セサルヲ得サルナリ

低價年期中ノ土地ニ付キ其形狀ヲ變更シタル場合ニ於テ其變更地租條例ノ所謂地目變換地租變換又ハ開墾ニ該當スルトキハ低價年期ハ消滅スルコトナキヤ法令中何等ノ規定スルモノナクハ予ハ此場合ニ於テ年期ハ消滅スルモノト謂ハサルヘカラスト爲スモノナリ何トナレハ此場合ニ於ケル取扱方ハ開墾

銀下年期中ニ於テ地目變換ヲ爲シタル場合ニ付キ地租條例施行規則第七條ノ定ムル所ト異ニスヘキ理由アルヲ見サルヲ以テナリ然ルニ此場合ニ於テハ地租條例施行規則第十二條ニ於テ特ニ規定スル所アリ低價年期中ハ如何ニ土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換地租變換又ハ開墾ト看做サスト爲シタルヲ以テ低價年期中ノ土地ニ付キ其形狀ヲ變更スルコトアルモ地價修正ノ必要ヲ誘起スルコトナシ地價修正ニシテ之ヲ要セスハ年期ノ消滅ヲ惹起スヘキ謂レナキヲ以テ予ハ此場合ニ於テハ低價年期ハ消滅セサルモノナリト信ス地租條例施行規則第十二條カ低價年期中ノ土地ハ其形狀ヲ變更スルモ之ヲ地目變換地租變換又ハ開墾ト爲サスト爲シタルハ何等ノ理由ニ出テタルヤハ予ノ理解ニ苦シム所ナリト雖モ該條ノ規定アル以上ハ予ハ此ノ如キ解釋ヲ取ラサルヲ得ス而シテ低價年期中其形狀ヲ變更シタル土地ハ年期明ニ至リテハ原地價ニ復シ難キモノトシ地租條例第二十二條ニ依リ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正スルノ外ナカルヘシ

低價年期ヲ許可シタル土地ハ許可ノ初年ヨリ年期満了ヲ年マテ低減シタル地

價ヲ適用シ滿了ノ年ノ翌年ヨリ原地價ニ依リテ其地租ヲ徵收スヘキモノトス

第四 地價ノ消滅

一 地價ノ消滅ナル場合
第十一條カ免租地ニシテ有租地ト爲リタルトキハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ムヘキコトヲ定メタルヲ以テ見レハ有租地ニシテ免租地ト爲リタルトキハ其地價ハ自ラ消滅スト爲スモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ有租地ニシテ免租ト爲ルトキ其地價消滅スルモノト爲スニアラサレハ免租地ニシテ有租地ト爲ルトキ新ニ之ニ地價ヲ設定スルノ必要ヲ見サルヲ以テナリ是レ獨リ論理ノ結果ナルノミナラス實際ノ必要ヨリシテ言フモ亦此場合ニ於テハ地價ノ消滅アルモノト爲ザサルヘカラス元來免租地トシテ土地ヲ使用スルニハ多クノ場合ニ於テハ有租地トシテ之ヲ使用シタル場合ト其形狀ヲ變更セサルヘカラス故ニ再ヒ之ヲ有租地ト爲スモ其形狀ハ從前有租地タリシトキト同一ナラサルコト多シ假ニ一步ヲ讓リ有租地ノ形狀ヲ變スルコトナクシテ免租地ニ

使用スルコトヲ得タリトスルモ一旦免租地ト爲リタル後免租地中ノ各種目如變換スルコトハ法律之ヲ禁セザルヲ以テ後ニ至リ之ヲ有租地ト爲ストキハ其形狀ハ既ニ全ク變更シタル場合鮮シトセス此ノ如キ場合ニ於テ若シ當初有租地タリシトキニ有シタル地價ニ依リ其地租ヲ徵收スヘキモノトセハ地價ハ其地ノ所得ト比準ヲ得ス地租賦課ノ基礎ハ甚シキ不公平ノモノト爲ルヘシ故ニ有租地ニシテ免租地ト爲リタルトキハ或ハ其地價ヲ存シ再ヒ有租地ト爲リタルトキ之ヲ修正スルカ將タ免租地ト爲ルト同時ニ其地價ヲ消滅セシメ再ヒ有租地ト爲リタルトキハ更ニ新ニ之ニ地價ヲ付スルカ二者其一ノ方法ヲ選ビテ之ヲ適用セザルヘカラス而シテ前者ヲ取ルノ煩雜ハ後者ニ出ツルノ簡便ナルニ對カサルカ故ニ地租條例ハ其規定ノ反面ニ於テ有租地ニシテ無期免租地ト爲リタルトキハ其地價ノ消滅スルコトヲ認メタリ有租地ニシテ無期免租地ト爲リタル場合ニ於テ其地價消滅スヘキモノナリトセハ有租地ニシテ地租ヲ課セタル土地ト爲リタル場合ニ於テハ無論其地價ハ消滅スヘキモノト爲ザサルヘカラサルヲ以テ有租地ニシテ御料地皇族賜邸又ハ國有地ト爲リタルトキハ其

地價ハ自ラ消滅スルモノトス
 土地分合ノ場合ニ於テ新規ノ區域ニ對シ地價ヲ付スルハ予ノ見ル所ヲ以テス
 ル一ノ地價設定ヲ爲スモノナリ而シテ此場合ニ於テ從前ノ區域ニ對スル地價
 ハ其區域ノ消滅ト共ニ消滅スルモノナルコトハ更ニ説明ヲ要セス
 荒地免租年期ヲ受ケタル土地ハ年期ノ許可ト同時ニ其地價ヲ失フモノナリト
 ハ地租條例第二十二條ノ規定ノ反面ヨリ推論セラレタル一議論ナリト雖モ此
 場合ニ於テハ此ノ如キ解釋ヲ取ルコト能ハサルコトハ予カ既ニ詳論シタル所
 ナリ而シテ荒地免租年期ヲ受ケタル土地ニ付キ論シタル所ハ之ヲ他ノ有期免
 租地ニ適用スルコトヲ得ヘキカ故ニ有租地ニシテ造林ヲ爲シタルカ爲メ免租
 年期ノ許可ヲ得ルモ其地價ハ消滅セサルモノトス
 二 地價消滅ニ伴フ納稅義務ノ區分
 有租地ニシテ地租ヲ課セサル土地又ハ無期免租地ト爲リタルトキハ地租ノ標
 準タル地價モ亦消滅ス此場合ニ於テ地租ハ何レノ時ヨリ之ヲ免スルカ此問題
 ハ地租ヲ課セサル土地又ハ無期免租地ニシテ有租地ト爲リ地價ヲ設定シタル

トキハ何レノ時ヨリ其地租ヲ徵收スヘキヤトノ問題ノ反面ナリ予ハ地價設定
 ノ場合ニ於ケル納稅區分ニ付キ論シタル如ク地租ハ年稅ナルヲ以テ法律ニ於
 テ特ニ例外ヲ定メタル場合ノ外ハ年ノ央ニ於テ無租地ト爲リタル土地ニ付テ
 其年ノ地租ハ全額之ヲ徵收シ翌年ヨリ始メテ之カ賦課ヲ廢スヘキモノト爲ス
 者ナリ但シ後ニ説明スヘキカ如ク地租ハ納期ニ於テ土地臺帳ニ記名セラレタ
 ル者ヨリ徵收スヘキモノナルカ故ニ有租地カ御料ト爲リ又ハ國有ト爲リタル
 場合ノ如ク土地臺帳記名者カ地租ヲ納ムルコトヲ要セサル者ト爲リタルトキ
 ハ其納期ニ於ケル地租ハ之ヲ徵收セサルヘキハ勿論ナリ然レトモ此ノ如キ地
 租ハ土地臺帳記名者ヨリ之ヲ徵收スト爲シタル規定ヨリ生スル論結ニシテ地
 價消滅ニ伴フ納稅義務ノ區分トシテ然ルモノニアラザルナリ予ハ法文ノ解釋
 トシテハ以上ニ述フル所ヲ以テ正鵠ヲ得タルモノト信スト雖モ現行實際ニ取
 扱ハルル所ハ右ノ如クナラスシテ地價消滅以後ニ係ル納期ニ屬スル地租ハ全
 ク之ヲ徵收セサルモノノ如シ是レ新ニ地價ヲ設定シタル場合ニ於テ既往納期
 ニ屬スル地租額ハ之ヲ徵收セサルト同一精神ニ出ツルモノニシテ論理ノ結果

ヲ適度ニ止メテ行政處分ノ妥當ヲ計リタルモノナルヘシ
 地價設定ノ場合ニ於テ原則ニ對スル特例アルカ如ク地價消滅ノ場合ニ於テモ
 法律ハ右ノ原則ニ對シ左ノ例外ヲ設ケタリ
 (イ) 有租地ヲ買上ケ官有地ト爲シタルトキ(明治十年太政官布告第十八號) 此
 場合ニ於テハ買上ノ年ハ地租年額ヲ納ムルニ及ハス買上ノ前月マテ月割ヲ以
 テ計算シタル地租額ヲ納ムルニ足レリ但シ明治十年太政官布告第十八號第一
 條ハ民有地ヲ買上ル時ニ付テ規定スルカ故ニ有租地ヲ官ニ寄附シタル如キ場
 合ニ於テハ同條ヲ適用スルコト能ハス

(ロ) 有租地ヲ鄉村社地墳墓地ト爲シタルトキ(地租條例第一三條ノ一) 此場合
 ニ於テハ其年ノ地租ハ鄉村社地又ハ墳墓地ト爲スノ許可ノ月ノ前月マテ月割
 ヲ以テ計算シタル租額ヲ徵收シ許可ノ月以後ノ月割ニ係ル租額ハ之ヲ免除ス
 (ハ) 有租地ヲ用惡水路溜池隈塘井溝鐵道用地及ヒ公衆ノ用ニ供スル道路ト
 爲シタルトキ(地租條例第一三條ノ一) 此場合ニ於テハ茲ニ掲ケタル土地ト爲
 スカ爲メニ施スヘキ工事ニ着手シタル月ノ前月マテノ月割地租額ヲ徵收シ工

事着手ノ月以後ノ月割額ハ之ヲ徵收セサルモノトス若シ何等ノ工事ヲ施サス
 シテ該供用ヲ爲ス土地ハ月割ノ例外ニ依ラス原則ニ從フヘキモノトス
 (ニ) 砂防法ニ依リ有租地ニ對シ一定ノ行爲ヲ禁止シ又ハ制限シタルトキ(明治
 三十二年勅令第三百七十四號第三條) 此場合ニ於テハ禁止又ハ制限ヲ爲シタ
 ル月以後ニ係ル月割租額ヲ免除スルモノトス
 (ホ) 公共團體ノ所有地ヲ公用ニ供シタルトキ(明治三十三年法律第十九號) 始
 メテ公用ニ供シタル年ハ地租全額ヲ徵收シ其翌年ヨリ之ヲ免スヘキモノトス
 法律ハ明ニ公用ニ供シタル年ノ翌年ヨリ地租ヲ免スヘキコトヲ定ムルカ故ニ
 公用ニ供シタル日カ年ノ一月一日ニ在ルモ尙ホ其年ハ地租全額ヲ納ムルノ義
 務アルモノト謂ハサルヘカラス

第三款 課稅ノ程度

第一 地租ノ課率

一 定率 地租ノ沿革ヲ叙スルニ當リテ掲ケタル如ク地租改正ノ初年ニ於テハ

現行租稅法論 各種ノ租稅 地租 現行地租

地租ハ地價ノ百分ノ三ヲ以テ其定率トシ同時ニ爾後制定セラルヘキ物品稅ノ收入二百萬圓以上ニ至キハ新稅ニ係ル増加收入ノ割合ニ地租ノ課率ヲ輕減シ終ニ地價百分ノ一至ラシムルコトヲ期セラレタリ明治十年減租ノ大詔出テ定率ハ減シテ地價百分ノ二分五厘ト爲リ明治十七年現行地租條例ノ制定セラルルニ及ヒ一定ノ年限毎ニ地價ヲ改正シ以テ法價ヲシテ實價ニ近カシムルノ方針ヲ掩棄セラレタルト共ニ物品稅ノ收入ヲ以テ地租輕減ノ財源ト爲スノ所期ハ之ヲ中止シ其第一條ニ於テ地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トスルコトヲ定メラレタリ故ニ有租地ニ付テハ其土地ニ付セラレタル地價百分ノ二箇半ノ割合ヲ以テ年年其地租ヲ納メサルヘカラサルモノトス

地租條例第一條第一項ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス故ニ納稅義務者ハ年年割合ヲ以テ地租ヲ納ムヘキハ無論ナリト雖モ一年ノ定率トスト特ニ課率ノ上ニ一年ナル文字ヲ加ヘタルヲ以テ一見土地カ一年ノ中途ニ於テ有租地ト爲リタルトキハ一年地價百分ノ二箇半ノ割合ヲ以テ其日數ニ應ジテ地租ヲ算出スヘキモノナルカ如シト雖モ該條文ハ此ノ如キ意義ヲ以

テ制定セラレタルモノニアラス地租ノ年稅ナルコトハ古來ノ制度ニシテ地租改正條例又ハ現行地租條例ハ決シテ之ヲ改正スルノ趣旨アリシモノニアラス特ニ前ニモ論シタルカ如ク地租條例中ノ他ノ條文カ一年ノ中間ニ於テ有租地ニシテ免租地ト爲リ又ハ免租地ニシテ有租地ト爲リタルトキハ月割ヲ以テ其地租ヲ計算スヘキコトヲ定メタルヲ以テ見レハ此ノ如キ特別規定ナキ以上ハ常年額ヲ徵收セサルヘカラサルコト其趣旨ナリト謂ハサルヘカラス故ニ予ハ地租條例第一條第一項ヲ解シテ地租ハ地價百分ノ二箇半ノ定率ヲ以テ毎年之ヲ賦課スト規定シタルト同一意義ヲ有スルモノト爲ス者ナリ但シ實際ニ於テハ有租地ヲ無租地ト爲シ又ハ無租地ヲ有租地ト爲シタルトキニ於テ納期ノ既ニ經過セルト否トニ依リ斟酌ヲ加フルコトハ前既ニ述ヘタルカ如シ

二 増率 地租條例第一條ハ其第一項ニ於テ地租ノ定率ヲ定ムルト同時ニ其第二項ニ於テ明治三十二年分ヨリ同三十六年分迄地租ニ於テ地價千分ノ八市街宅地地租ニ於テ地價百分ノ二箇半ヲ増徴スト定メタリ本項ハ明治三十一年法律第三十二號ヲ以テ追加セラレタルモノニシテ本項ノ如キ一時ノ規定ニ

保ルモノヲ地租條例ノ本則中ニ掲ケタルハ立法ノ體裁上多少ノ議論アルヲ免レサルヘシト雖モ體裁ノ議論ハ姑ク之ヲ措キ本項ノ規定ハ稍ヤ明瞭ヲ缺ク所ナキニアラヌ然レトモ本項ヲ追加セラレタル所以ノ趣旨ヨリ推及スレハ本項ノ意義ハ明治三十一年ヨリ同三十六年ニ至ル五十年間ハ市街宅地ニ付テハ定率ノ外地價百分ノ二箇半ヲ増徴シ其他ノ土地ニ付テハ定率ノ外地價百分ノ八ヲ増徴スルニ在ルコト何等ノ疑ヲ容レズ即チ該年間ハ地租ノ課率地價百分ノ三箇三又ハ百分ノ五ト爲リタルニアラスシテ定率地租ノ外地價百分ノ八又ハ百分ノ二箇半ノ附加稅ヲ課スルモノナリ此事タル單ニ文字上ノ爭論ナルカ如シト雖モ實際ニ於テハ端數計算ニ依リテ生スル差違ノ爲メ稅額ニ些少ノ影響ヲ及ホスモノアルヲ以テ特ニ茲ニ一言ヲ費スモ必スシモ無用ニアラサルヘシ

第二 地租ノ輕減

檢見法ニ依リテ地租ヲ徵收スル制度ノ下ニ於テハ農作ノ場合ニ於テハ定免以外ニ納租額ヲ増加スルコトアルヘキカ如ク凶作ノ場合ニ於テハ定免以下ニ地租額ヲ輕減スルコトナカルヘカラス租稅ヲ以テ國民カ其所得ノ一部ヲ割イテ國

用ニ資スルモノナリトセハ檢見法ニ依リ土地ノ收益ヲ調査シ之ニ依リ其負擔額ヲ定ムルコト敢テ其理ナキニアラス然レトモ一利害事物ノ數ニ於テ免レナル所エシテ理論ニ於テ正理ヲ含有スルコト疑ナキ檢見法ナルモノモ實際ニ於テハ實ニ弊害ノ淵源タルヲ免レザリシハ地租改正前ノ事實之ヲ證シテ餘アリ地租改正ハ其趣旨土地ノ負擔ヲシテ公平ナラシムルニ在リシハ勿論ナリト雖モ檢見法ノ弊害ヲ除去スルコトモ亦其斷行セラレタル所以ノ一因ヲ爲スモノナリ故ニ地租改正條例ハ其第二條ニ於テ地租ハ年ノ豐凶ニ依リテ増減セラルコトヲ明ニシ地租條例モ亦其第二條ニ於テ此精神ヲ言明セリ地租條例第二條ハ地租ハ毎年土地臺帳ニ掲ケタル地價ノ一定ノ割合ヲ以テ之ヲ賦課スヘキコトヲ規定スルヲ以テ時ニ之ヲ増減スルノ必要アリトセハ特ニ之ヲ規定スルヲ要スヘク特別規定ナキ限リハ地租ノ額ハ毎年一定シテ動クコトナカルヘキカ故ニ法文起草ノ上ヨリ言ヘハ地租條例第二條ノ如キハ實ニ無用ノ贅文ナリト謂ハサルヘカラス無用ノ贅文ニシテ尙ホ嚴然トシテ法律中ニ叙列セラルル所以ノモノ以テ檢見法ヲ廢スルノ實ニ地租改正ノ大精神ニシテ立法者カ如

何ニ國民ヲシテ此事ヲ其腦漿ニ印セシムルヲ必要トシタルカヲ見ルニ足ルヘシ地租條例ノ制定者ハ獨リ年ノ豊凶ニ依リ地租ヲ増減セサルヲ必要トシタルノミナラス年ノ豊凶ニ依ラサル地租輕減ナルモノモ亦之ヲ認メタルヲ可トシタルモノノ如シ現ニ荒地免租年期ノ土地ニシテ其地力ノ復舊セサルモノニ對シテハ法律ハ低價年期付與ナル方法ニ依リ地租輕減ノ實行ヲ行フト雖モ法文上ニ於テハ地租輕減ナル名ハ則チ之ヲ用ヒサリシナリ

地租條例ハ地租ノ輕減ナルモノヲ認メサルヲ原則トスルコト以上述フル所ノ如シ而シテ此原則ハ實ニ明治三十年法律第二十九號砂防法第十一條ニ於テ例外ヲ設ケラレタリ砂防法第十一條ニ依レハ主務大臣カ砂防設備ヲ要スト爲シタル土地又ハ治水上砂防ノ爲メ一定ノ行爲ヲ禁止若クハ制限スヘキモノト爲シタル土地ハ其禁止又ハ制限ノ程度ニ因リテハ全ク其地租ヲ免スルコトヲ得ト雖モ其禁止又ハ制限ノ程度ニシテ地租ノ免除ヲ必要トスルマテニ至ラサルモノハ之ヲ輕減スルコトヲ得ルモノトス而シテ此場合ニ於テハ低價年期ノ場合ノ如ク法律ハ特ニ輕減ノ割合ヲ定メサルヲ以テ行政官ハ土地占有者カ禁止又

ハ制限セラレタル行爲ノ程度如何ニ依リ之ニ相應シタル輕減ノ割合ヲ定メテ之カ許可ヲ爲スヘキモノナリ且ツ輕減スヘキ期間モ亦低價年期ノ場合ノ如ク一定ノ年間ヲ以テ之ヲ定メス明治三十二年勅令第三百七十四號第三條ヲ以テ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル月ヨリ其ノ禁止又ハ制限ヲ解キタル月マテト爲スカ故ニ禁止又ハ制限ノ繼續スル間ハ其地租ヲ輕減シ其始期又ハ終期ニシテ一年ニ滿タサルトキハ月割ヲ以テ之カ計算ヲ爲スヘキモノトス

砂防法ニ依ル地租ノ輕減ハ一定ノ行爲ノ禁止又ハ制限ニ伴ヒ當然發生スルモノニアラス土地所有者ニシテ地租輕減ノ特典ヲ受ケント欲セハ必ス之ヲ所轄稅務管理局長ニ申請セサルヘカラス特ニ申請ハ明治三十二年勅令第三百七十四號第四條ニ依リ禁止又ハ制限ヲ命セラレタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲テサルヘカラサルヲ以テ此期日內ニ申請セサル者ハ後日ニ至リ出願ヲ爲スモ勅令ノ定ムル所ニ適合セサルノ故ヲ以テ地租輕減ノ特典ヲ受クルコト能ハサルモノナリ

第四款 納稅義務者

地租賦課ノ目的物ニシテ土地ニ在リトセハ地租ノ納付ヲ爲スヘキ者ハ其土地ノ所有者ナラサルヘカラサルハ殆ト疑ヲ容レヌ外國ノ立法例ニ於テハ土地カ地上權、永小作權、賃借權等ノ目的ト爲リタル場合ニ於テハ地上權者、永小作權者、賃借權者等ヲシテ地租納付ノ義務ヲ負ハシムルモノナキニアラスト雖モ此ノ如キハ明文ノ規定ヲ待テ始メテ然ルモノニシテ特別ノ規定ナクハ常ニ土地所有者ニ於テ地租ヲ納付スヘキコト當然ナリ然レトモ單ニ所有者ヲシテ地租ヲ納付セシムヘキモノト爲シ更ニ何等ノ規定ヲ爲ササルトキハ年中途ニ於テ所有權ノ移轉アリタル場合ニ於テハ前後ノ所有者ヲシテ各其負擔スヘキ地租額ヲ分納セシメサルヘカラスシテ其間煩雜錯綜ヲ免レサルヘシ法律ハ此煩雜錯綜ヲ避クルカ爲メ一ノ規定ヲ設ケ地租ハ土地臺帳記名者ヨリ之ヲ徵收スルモノト爲セタリ地租條例第一二條土地臺帳記名者ヨリ地租ヲ徵收ストハ語簡ニ過キテ稍ヤ明瞭ヲ缺クト雖モ其意ハ地租ハ各納期ニ於テ現ニ土地ノ所有

明治三十三年十一月廿一日印刷
明治三十三年十一月廿五日發行

東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地

編輯者

小田 幹 治 郎

東京市芝區西ノ久保町六丁目十一番地

印刷者

金子 鐵 五 郎

東京市芝區西ノ久保町六丁目十一番地

印刷所

金子 活 版 所

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地

發行所

司法省
指定

和佛法律學校

(電話番町百七十四番)



明治二十二年十二月九日內務省許可